



編集発行者
 千葉大学医学部
 るの は な 同窓会報編集部
 〒260-8670 千葉市中央区玄鼻1-8-1
 千葉大学医学部内
 るの は な 同窓会
 電話 (043) 202-3750
 FAX (043) 202-3753
 e-mail : info@inohana.jp
 HP : http://www.inohana.jp/



千葉大学医学部同窓会報 第162号 題字 故鈴木五郎 (大11卒 るの は な 同窓会長)

年頭の挨拶

るの は な 同窓会長 伊藤晴夫 (昭39)



るの は な 同窓会の皆様、明けましてお目出度うございます。

昨年、山中伸弥教授がノーベル医学生理学賞を受賞されたことは、とかく元氣の出ないニュースが多かった日本にとって誠に喜ばしいことであります。千葉大学発のノーベル賞を期待したいものです。るの は な 同窓会の目的の一つである医学部支援も、この一助となればと思います。

千葉大学医学部創立135周年記念事業に關しましては日本経済が最悪な状況であるにも拘らず、多くの方々からご寄付を戴きました。ここにあらためて厚く御礼申し上げます。事業の一環である135周年記念誌は立派なものが発行されました。また千葉医学の理念の言語化も素晴らしい口

ゴヤシンボルマークに実を結びました。しかし、同窓会館の入札は資材・人件費の急騰により困難に直面しており、本会報をお届けするまでにどこまで進捗できるかはつきりしない点もございいます。引き続き皆様のご支援をお願い申し上げます。

最近、るの は な 同窓会支部の半数近くの会長の皆様交代されました。そこで新たに会長になられた先生方にこの新年号でのご挨拶を頂きたく、ご寄稿をお願い致しました。新春の夢が熱く語られ、るの は な 同窓会のさらなる発展の起爆剤となることを確信いたします。どうか宜しくお願い申し上げます。



新るの は な 同窓会館設立事業について

これまで2回の入札が不調に終わりました。同窓会会員の皆様の期待に答えられず、誠に申し訳ありません。第3回の入札に向けて更なる寄附金をお願いしなければなりません。寄附金を積み増すと共に別途工事(契約後に別途工事を発注するようにして入札価格を削減する)を増やすなどして落札できるように図っております。今回の入札の具体的な日程は決まっています。12月中旬以降となる見込みです。ここで落札すれば、竣工は当初の予定より大幅に遅れ、来年9月頃となる予定です。一日も早く、ご寄付いただいた会員の皆様のご期待に応えられるよう今後とも設計担当者と連携しながら事業を進めていきます。

建物・設備等整備委員会委員長 田邊 政裕

最終講義

腫瘍病理学

張ヶ谷 健一 教授

日時 平成25年2月27日(水) 午後2時半
 場所 医学部附属病院第一講堂(3階)
 演題 「癌細胞浸潤形質を演出する接着分子CD45の役割」

小児病態学

河野 陽一 教授

日時 平成25年2月28日(木) 午後3時
 場所 医学部附属病院第一講堂(3階)
 演題 「小児免疫・アレルギー疾患の基礎から臨床」

祝 叙 勲

- 平成24年 秋の叙勲
- 旭日双光章 三枝 一雄 (昭32)
- 瑞宝中綬章 白濱 龍興 (昭41)
- 瑞宝小綬章 熊谷 信夫 (昭28)
- 飯田 龍一 (昭41)
- 瑞宝双光章 下野 武 (専25)

紙面紹介

年頭の挨拶	1	学内情報	17
新年の挨拶	2	学生教育	20
就任挨拶	4	課外活動団体	21
人事異動	6	会員から	22
名誉教授から	7	お知らせ	23
雑文雑談	9	追悼文	24
各地のるの は な 会	10	著書紹介	27
クラス会	12	オンライン会報	28
研修プログラム	15	会館設立	30
研修医だより	16	編集後記	35

第14回るの は な 同窓会学外研究 助成決定

2012年度るの は な 同窓会学外研究助成は次の方に決定いたしました。

杉本 晃一氏

(東京女子医科大学病院、現在 The Royal Children's Hospital in Melbourne、心臓血管外科、千葉大・平13) 「解剖学的単心室におけるフオンタン循環不全とTCCC conversionによる循環改善のメカニズムの解明」多次元コンピュータ血流プログラムによる患者個別モデルを用いた解析」

新年の挨拶

東日本大震災をのりこえて

あのはな会茨城県支部会長 佐藤 忠夫 (昭29)



明けましておめでとう御座います

平成22年より、三宅和夫先生の後を継いで、あのはな会茨城県支部会長に就任いたしました。昭和29年千葉大学医学部卒業、第一内科三輪内科、日立製作所多賀総合病院を経て、昭和46年4月より日立市にて開業して、現在も診療に従事しております。その間、茨城県医師会とがん対策の活動により平成15年9月叙勲にて旭日雙光章を受賞しました。平成23年3月11日に東日本大震災が起り、地震と津波、更に福島第二原発の水素爆発、さらに炉心溶融による被爆の恐怖など、茨城県も被災県であり甚大な被害を受けました。日立市も電気、水道、道路などライフラインの破損がひどく常磐線も線路の破損、駅の倒壊で不通となり、まさに10日間は、陸の孤島で、外部情報もラジオだけで電気が来て初めて災害のひどさに驚きました。幸い県内のあのはな同窓は皆無事でした。

新春挨拶

千葉県のあのはな会長 三枝 一雄 (昭32)



新年明けましておめでとうございます。

実際に長年、大学のキャンパス、病院に行ったことはなく、病院も面目を一新して建て替えられ、同窓会館も出来ることですので、機会があれば一度行ってみたいと考えております。大学にて研究されている先生方、又学生の諸君に快適な環境となり、将来に夢のあるキャンパスとなることを期待しております。

さて、あのはな会茨城県支部の歴史と現況については、千葉大学医学部135周年記念誌に、私の資料に基づき説明させていただきます。手元の名簿により、現在名簿登録会員は約124名で、2年に1回総会を開催しております。昨年の11月3日には、水戸にて久しぶりに、同窓の先生方とお会いして楽しいひと時を過ごしました。当日大学からは、千葉大学大学院医学研究科消化器・腎臓内科学の横須賀收教授に来ていただき、肝臓疾患と最近の大学の近況についてご講演を頂きました。大学の様子は、千葉大学医学部同窓会報あのはなにて承知しておりますが、

伊藤晴夫会長はじめ皆さんお元気に新春を迎えられたことと拝察致します。わが千葉県あのはな会は昨年会長である私の健康上の理由で皆さんにご心配をおかけしましたが、それがかえって活性化の火種となりました。今年若し会員を中心に大いに盛り上がる期待が膨らんでおります。すなわち、昨年の総会準備から、栗原伸夫副会長を中心に検討が重ねられ、まず役員・会員の若手登用の活性化が図られました。総会後、さらにその反省を加えて役員達が自主的に想を練り、新たに「千葉県あのはな会News Letter」を8月に刊行しました。そこでは会員にとって必要欠くべからざる大学や同窓会のニュースを提供し、新たに時事的な問題も取り上げ、諸種の提案や論議が掲載される予定です。本会発展の為に問題点を掘り下げ、若い会員にも本会へ参加する意欲を高めるように配慮しております。

そのほか、規約改正にも取り組み、本部・大学と密接な連携を保ちつつ、初代渡辺武会長の創立時の意向に添って活動を一層進めたいと思います。さらに本部のみならず隣の地区あのはな会との交流が活発になり、お互いの意見・情報を交換出来るようになったことも力強い限りです。今後ともよろしくお願い致します。

明けましておめでとうございませう

栃木県のあのはな会長 坂田 早苗 (昭34)



全国のあのはな会会員各位におかれましては希望にあふれた新年を迎えられたことと推察を致します。

私は平成21年1月より、前会長、柴崎晃先生からバトンタッチを受けて栃木県あのはな会会長を引き継いでおります。

会長を引き継ぎました頃は、栃木県あのはな会会員は約200名ぐらい在籍しておりました。しかし、研修医制度が変更になりました影響で会員数は激減し現在は約100名ぐらゐとなりました。

栃木県には上都賀病院・下都賀病院・獨協医科大学・塩谷病院・石橋病院など公立病院がありました。塩谷病院は国際医療福祉大学附属塩谷病院となり、外科にわずかに2、3名のあのはな会会員を残すのみとなりました。また石橋病院からは全員が撤退し、上都賀病院、下都賀病院からは

スタッフの引き上げなどがあり、栃木県あのはな会の会員数は減少致しました。しかし、獨協医科大学関係では教授・准教授・講師などのスタッフの就任があり、栃木県あのはな会会員の増加がありました。

会長就任以来、近隣のあのはな会の総会には出来るだけ参加出席するように心掛けておりますが、各県も研修医制度の影響はかなり受けているようです。しかし、全国あのはな会理事会や近隣のあのはな会・総会に出席してみると、やはり

新年の挨拶

神奈川県のあのはな会長 森 豊 (昭37)



新年おめでとうございませう。

平成22年、富田前会長の後をお引き受けしました新米会長の森豊と申します。

千葉大学の実力が認められ、研修医制度が一段落した最近では、東京都や千葉県などで千葉大学出身の教授就任というお目でたい話題が多々ありました。栃木県においては獨協医科大学での教授昇任や就任あるいはセンター長就任が見込まれ、明るいへび歳になるのではないかとわくわくしている新年です。消費税が8%、10%に上昇するのが各医療機関にとり心配になりますが、これに対する対策を今年から立てなくてはならないと考えております。千葉大学創立139年にふさわしいへび歳になることを夢見ております。

神奈川あのはな会会長職は、私には荷の重い仕事ですが、金沢病院のご好意で事務局をそのまま院内置いて頂いたり、副会長の小野田先生はじめ理事スタッフの協力を得て、神奈川あのはな会内務としては、まずまず順調に動いています。ところが、私あまり時間を取れない為、全あのはな

会総会及び理事会、また近隣都県の総会にお招き頂いても、なかなか出席できず大変失礼を続けている状態を心苦しく思っております。その様なわけで近隣都県のはなな会会長様を神奈川県のはなな会の総会にもご招待致しませんが、失礼しております事合わせて深くお詫び申し上げます。

新年の挨拶

山梨県のはなな会会長



会員の皆様、お招きいただきありがとうございます。今年もよろしくご指導をお願い申し上げます。昨年6月、前任の山角博先生（昭36）の後を引き継ぎ、山梨県のはなな会会長を拝命いたしました。年齢順ということのように、山梨県は会員数35人と少ないですが、年一回開催の総会には20人前後の先生方が出席され、出席率は非常に良好です。総会の後の懇親会は、ワインを飲みながらおいしいフランス料理を食べ、お

お詫びと言いつばかりのご挨拶になってしまいました。今年、今年は少しずつ時間を作るよう努力しまして、お付き合いの場にお出席できるように致しますので、よろしくお祈り申し上げます。新しい年が、皆様にとりまして、よい年でありますようにお祈りいたしまして、ご挨拶と致します。

清水 天（昭39）

互いに近況を語り合い、非常に和やかな雰囲気の中、非常員には、退職された副学長、教授、公立の病院長を始め、更に、現職の教授と要職につかれた先生が何人もおられ、多方面にわたってご指導ご助言をいただいております。

又、平成21年4月には、ご高名な元東京大学消化器内科教授小俣政男先生（昭45）が県立中央病院理事長に就任されました。強力な会員をお迎えして同窓会はもちろん、山梨医学会が活気づいてきております。私は高齢ですが現役で診療を続けていますので、これまで一度も山梨県同窓会に出席したことはありませんが、これからは役職の責任を感じてできるだけ出席しなければと思っております。

新同窓会館の設立は、一昨年の東日本大震災の影響で多少計画が遅れているようですが、立派な同窓会館の完成を期待したいと思います。同窓会報も全面カラー化となり、各地のはなな会の情報、クラス会の様子もカラー写真が掲載され非常に読みやすくなりました。この原稿を書いていると

地方のはなな会の現状

群馬県のはなな会会長



きに、iPS細胞を開発した山中伸弥教授がノーベル賞受賞といううれしいニュースが入ってきました。素晴らしいことだと思います。東日本大震災後の復興の遅れ、閉塞感のある政治、経済、外交の現状の中で、久々に明るいニュースでした。これからも医療、医学の進歩発展を期待し、会員皆様にとりまして本年がよい年でありますようお祈り申し上げます。

鈴木 守（昭39）

長く群馬のはなな会会長として会員をまとめてこられた前鹿山徳男先生の後を引き継ぎ、平成23年から会長のご指名をいただきました。一度も来たことのない群馬に家族もとも参りまして38年が経過し、群馬県内のはなな会の諸先生方も長いお付き合いとなりました。今般、会長を拝命してみると、東京、千

にいたる予定されたスケジュールを変更せざるを得ない状況が過日報告されました。しかし、新同窓会館を建設する計画は、同窓会で正式に決定された以上、たとえどのような困難や問題が立ちばだかろうとも、事を前向きに進めること以外にない、と我々は考えます。私の奉職してまいりました群馬大学医学部の様子もみても、学生が日常的に気楽に集うことのできる場所があることは、大学の帰属意識を育てる意味でも、とても大切なことと感じております。今千葉大学医学部だけがなく、多くの大学で、大学に対する帰属意識が急激に冷え込み、同窓会名簿の編集も大変な作業になってきた、との話も伺っております。「同窓会に入っているも、何のメリットがあるのか」という聞き直りを和らげて、同じキャンパス空間で同じ先生方に講義をしていただく、青春時代を過ごした大学というだけのことでも、大きな意味との認識を改めて持つようしたら如何でしょうか。よく「欧米の大学の同窓会は」という話を聞きますが、大学を設置し、維持していく文化が全く違う土壤に生まれ

なことをいくら論じても前進は期待できません。原点を押さえそこから地道にステップを踏まえて未来につながる以外に方法はあります。と申せ、翻って群馬のはなな会の様子をみますと、74歳の私が常連出席者の下から〇番目という「若手」であり、常連の出席者もせいぜい15名という状況です。群馬から千葉大学医学部へ

沖繩のはなな会40周年を迎えて

沖繩県のはなな会会長



沖繩のはなな会については、千葉大学医学部135周年記念誌に古謝景春先生（昭39）がかなり詳しく、正確に記載されておりました。ご存知の方も多いとは思いますが、自己紹介を兼ねてあらためてご報告させていただきます。

の合格者は毎年いるのですが、地元に戻って活躍する卒業生はほとんど見られないのです。近隣のはなな会ともよく連携し、皆様のお知恵を拝借して何とかよい形で、群馬のはなな会を維持していきたいと念願しております。地方のはなな会をどうか暖かい眼でご支援いただきたくお願い申し上げます。

の時代、渡りに船で試験や面接もなく、受け入れて貰いました。その後沖繩の僻地をまわり、米国で外科研修、県立病院を長く勤め、昭和63年、現在勤めている与那原中央病院を立ち上げました。草創期の頃は同窓の諸先輩の先生方には並々ならないお世話をいただきました。同窓と言うものは本当にありがたいと感謝しております。現在も外科をやっていますが、千葉での医局生活を経験していないこととは今になると少しさびしい思いがあります。この度、古謝先生から、同窓会への出席率が一番高いという理由で会長をやら

といわれ、断れず引き受けました。有能な若い先生方が多数おられるので特に心配はありません。沖繩在の千葉大学医学部出身者の数は正確には把握していませんが、平成23年8月の時点で43名の方が確認されました。沖繩なのはな会に出席される会員はおよそその半数だと思います。研修医の先生方や連絡の取れない若い先生方を含めると50名前後

信州なのはな会会長就任にあたって

信州なのはな会会長 内藤 威 (昭48)



あけましておめでとございます。平成24年6月、信州なのはな会会長に就任いたしました昭48卒の内藤威です。出身は東京都立青山高校卒です。前会長熊谷信夫先生(昭28)のお世話になり、昭和59年より長野県立須坂病院(産婦人科)に勤務していますが、もうすぐ30年になります。2年前に定年となり現在顧問として後輩の指導にあたっています。それまでは産婦人

になると推測されます。10年前に33年卒の安里洋先生(産婦人科)が会長をされているときにかなり立派な記念誌が作られています。今年には沖繩なのはな会創立40周年にもあたりますし、会員の把握と記念誌の編集を進めて行きたいと思っています。どうぞ皆様よろしくおねがいします。沖繩に来られる際はご一報ください。

科高見澤教授のもとで1年大学、以後成田赤十字病院におりました。おもえば、卒業して10年は千葉にいましたが、その間は「なのはな同窓会」のことは頭の中になかったと思います。それでも会費だけは払っていたのか、その所も全く記憶にありません。同窓会のことや長野へ来てからです。須坂病院はもちろん須坂市、長野市、松本市、軽井沢病院、阿南病院などに多くの先輩がおり、何かとお世話身にしみました。聞くところによると近頃では若い先生方は同窓会に入らず、ま

卒業後の行く先も追跡不能の方が増えてきたようです。最近の世相なのでしようか真に残念な思いがいたします。

長野県においては、「なのはな会」の歴史は古く、明治末頃よりあつたと聞きます。資料によりますと昭和28年には会員数140名でしたが平成18年には74名、平成24年現在では61名と減少しています。このままではじり貧になってしまいそうですが、長野は自然に恵まれています。都会生活に飽きた先生方が多く戻ってきてくれることを期待します。このたび100年ほど続いた会の会長となりその責任の重さを痛切に感じております。千葉大学医学部なのはな同窓会本部のもと、会がますます発展しますよう微力ながらもお役にたてたらと思っています。なにとぞよろしくお願いたします。



就任挨拶

千葉大学大学院医学研究院

総合医科学 (仮称)
特任教授 木村 文夫 (昭57)



平成24年4月1日付で千葉大学大学院医学研究院総合医科学講座(仮称)特任教授を拝命することになりました。これまでお世話になりましたのなのはな同窓会の諸先生方に心より感謝申し上げます。私は千葉大学医学部を昭和57年に卒業し、今年で卒業30年となります。旧第一外科(奥井勝二教授)に入局以来、教室と関連病院で外科臨床・研究・教育と様々な貴重な経験を積み重ねていただきました。特に、平成13年7月からは宮崎勝教授(臓器制御外科学)の下で文部科学教官として研鑽を積む機会を与えていただきました。

藤田保健衛生大学医学部 臓器移植科

教授 剣持 敬 (昭58)



平成24年9月1日付で、藤田保健衛生大学医学部臓器移植科の教授に就任いたしました。千葉大学先端応用外科、国立佐倉病院、国立病院機構千葉東病院在任中はなのはな同窓会の諸先生方に大変お世話になりましたこと改めてお礼申し上げます。

検査部門、手術室、ICU、HCU、2階に一般外来、管理部門、医局、講堂という特徴的な造りで、3階以上が一般病棟となります。新病院の準備室は東金市役所に設置されており、平澤博之名誉教授(理事長)の率いる独法のメンバーは看護師、事務官、建設関連の技官等、20名余りの皆さんです。現在、私も微力ながらそのお手伝いをしております。

例のない初の試みです。今回のプロジェクトの遂行には千葉大学医学部教授会及び関連講座・診療科の全面的な支援が不可欠です。また、新病院の運営にあたっては、既存の周辺医療機関や医師会の先生方との協力連携が不可欠です。診療科目や出身大学・講座に関わらず、広く関連の先生方にご協力をお願いする次第です。

私のモットーは高度な移植医療技術を駆使し、安全かつ質の高い医療を患者さんに提供することです。特にこの10年間は移植医療に没頭してきました。そんな生き方を認めてくれる人もいたようで、日本移植学会理事仲間である藤田保健衛生大学病院長の星長清隆教授に、是非とも僕の構想を実現してほしいと声をかけていただきました。藤田保健衛生大学病院は肝移植、腎移植、膵臓移

植を行っています。また、まだ移植例数は多いとはいえず、今後心臓、肺の胸部臓器を含めた全臓器及び髀臓器を実現し、真の臓器移植センターを作りたいという星長院長の構想は、実は私の夢でもあり、即答いたしました。しかも3名、4名のチームで始めてほしい、人選は任せる、との思いがたい話でしたので、千葉での移植患者さんへの思いや心配はありましたが、名古屋の新天地で力を出し切り、わが国最大、最強の移植センターを作ろうと決断いたしました。現在私に他に、千葉大学先端応用外科出身の丸山通広准教授、伊藤泰平講師の3名でスタートしています。来年4月には助教1名が加わる予定です。

藤田保健衛生大学病院は1,500床とわが国最大の病院で、船曳外科の流れで、外科系の診療科が強く、最近では宇山一朗教授のダヴィンチ手術は世界的にも有名で、本学のすべての外科系手術に応用されています。本学教授は慶応大、名大出身者が多く、勿論千葉大出身は初めてであり、大丈夫かなと感じたこともありましたが、もともと知っていた

先生方も多かつたせい、皆とても親切で学生、研修医も素直で大変楽しく仕事をしています。慣れない中で既に、生体腎移植、脳死臓器同時移植4例も行い、すべて順調に経過しほつています。

この度、順天堂大学医学部乳腺内分分泌外科の大学院および大学の教授を拝命いたしました。昭和59年卒の旧姓海老原光江です。私は、高校（千葉県立船橋高校）の頃は、文系志望でクラス



順天堂大学医学部
乳腺・内分分泌外科学研究室
教授 齊藤 光江 (昭59)

できること、またこのようなチャンスを与えていただいたこと、何より仕事が楽しいこと、これはすべて馬鹿の一つ覚えのように移植を続けてきた賜物と思えます。

与えられたチャンスは生かして結果を出してこそ真のチャンスになるものです。今後は千葉大学の名に恥じぬよう、精一杯本学、わが国、世界の移植医療の発展に寄与できるよう、教育・診療・研究に努力してゆきたいと思えます。

せんでした。学内の医局をあきらめて、学外の外科への入局を決めた時、外科自体をあきらめた同級生の旧姓平石由美さんに、「外科を望む後輩女子の道を閉ざさないように、外科医になるならとにかく中途で辞めることなく続けてよ。」と言われました。その言葉の重み、ありがたみを幾度かみしめたことでしょうか。

卒後4年で結婚し、その3年後に子供を産み、子供が21歳になった今年の6月までに、この仕事を辞めたいと思ったことはありませんでした。勿論、出産までは、子供の状況次第では、臨床医を続けることは困難になるかもしれないと覚悟をしましたが、出産後も子供にもしも重篤な病気が見つかったなら、基礎医学に転向しようかと、子供次第で母親は生き方を変えるべきだとは思いました。しかし、辛い平日には唯の一度も熱を出すことのない、極めて働く母親思いの良い子でありました。そのおかげで、外科医を続けることができたわけです。しかし、困難にぶつかるたびに、友人のあの言葉は、私を奮立たせる一番の支えになりました。これは言うまでもありません。

子供は、米国のMDアンダーソン癌センターに留学中に授かりました。夫を残して単身赴任中のことであり、周囲は驚きましたが、私にとっては保育施設の充実した米国で子育てを始めたことは、とてもラッキーなことでした。産休も育休も制度自体無いのですが、基礎医学の研究室でしたので、患者さんに迷惑をかけることなく、また時間の管理をうまくやりながら、2年間という短い期間に、研究結果もまとめることができました。その間、乳腺炎で手術を受けたことが、私の乳腺外科医としての人生の始まりでした。

帰国後、数年経つてから、癌研究会附属病院の乳腺外科に就職し、そこで乳腺外科医としてのキャリアを積みました。これを東大の科長から認められ、7年半の後に、東大の講師になりました。東大で乳癌の治療体制を整えたのちに、今度は順天堂大学で日本の大学初の乳腺センター立ち上げの話があり、そこに異動となりました。乳腺センターにおいて、症例数とスタッフを立ち上げ当初の3倍にし、内容も充実した今年、赴任6年半にして、教授に選出されていたことになりました。

した。臨床系で初めての女性教授とのこと。子供が小さいころの子育てに随分協力してくれた母は、昨年亡くなりましたが、女手一つで3人の子を育てた母にはかなわぬものの、自分で選んだ道を責任を持って全うに生きてこられたことを一番に母の墓前に報告し、次に由美さんから私を支えてくれた多くの友人、先輩、後輩たちに知らせました。特に59年卒の仲間

平成24年9月1日より、新潟大学大学院医歯学総合研究科循環器学分野(旧第一内科)の教授を拝命致しました。第一内科は、新潟大学医学部の前身である新潟医学専門学校の開校とともに明治43年に開設された講座であり、私で10代目の教授となります。今回、第一内科は、循環器内科と血液・内分分泌・代謝内科に再編され、私が循環器内科を



新潟大学大学院医歯学総合研究科
生体機能調節医学専攻器官制御医学講座循環器学分野
教授 南野 徹 (平元)

それぞれ立派に自らの道を切り開いています。同士の活躍は、如何に嬉しく頼もしく、励みになるかを最近は身に沁みて感じます。これからは、社会に恩返しです。何かお役に立てることがございましたら、どうぞお気軽にご相談ください。最後に、同窓会の皆様のご健勝とご活躍を心よりお祈りしてご挨拶とさせていただきます。

担当することになりました。ご存知のように新潟大学は、医学部を有する県内で唯一の大学でありますので、県内の主要な病院は、第一内科の同門の方々が中心的な役割を担っております。そのような意味でも、新潟大学の地域医療への貢献が非常に重要であり、地域の医療レベルを向上させるべくとも大学の重要な使命と考えております。第一内科の同門の方々は、伝統的に学求肌の先生が多く、先日私が講演したときに同門の先生から頂いた多くの質問のレベルの高さに驚かされました。また、同門の結

東も固く、今回私が外部から招聘された教授であるにもかかわらず、大変協力的であることが印象的でした。このような土壌を生かして、多くの臨床研究を立ち上げ、世界に発信していきたいと考えています。

また、このように歴史のある講座ですので、以前より基礎的な研究も盛んに行われてきました。心不全のメカニズムを圧容量曲線や心筋収縮性復元曲線に基づいて検証する研究や心筋炎モデルを用いた免疫制御機構の解明、培養増幅した赤芽球を用いた血管再生治療の開発、さらにはそれらの結果に基づいたトランスレ

ーションリサーチも展開されており、今後はこれらの研究に分子生物学的手法も取り入れながらさらに発展させるとともに、私

がこれまで行ってきた心血管代謝制御における老化や再生の研究も押し進めたいと考えております。

私見ではありますが、臨床教室を主宰する教授には、内向きのベクトルと外向きのベクトルが必要であり、それらのバランスが重要です。臨床教室の教授を选考するにあたり、旧七帝大や、旧六でも熊本大学のように常に外向きのベクトルの強

い候補者を選出するところもあり、通常は、大学ごとの方針、さらには、方針の时期的な変化がその選考に影響します。現在新潟大学では、外向きのベクトルの強い候補者が最終選考まで残っている傾向が強いので、ぜひこのチャンスを生かして、るのな同窓会の中から、多くの候補者を推薦されることを強く希望致します。

人事異動

教授

石井伊都子 (薬学・昭63)

准教授
清水宏明 (昭61)

臓器制御外科学

分子病態解析学
松下一之 (昭63)

臨床腫瘍学
椎葉正史

公衆衛生学
尾内善広

講師
長谷川 洋

循環器内科学
麻酔・疼痛・緩和医療科

青野光夫 (三重大・平2)

(同助教より)

(同助教より)

現在前任の相澤先生から引き継いだ教授室で仕事をさせて頂いておりますが、多くの方々からお花などを贈って頂き、20鉢ぐらいの胡蝶蘭に囲まれて(廊下まではみ出ていますが)、新しい教室を立ち上げるべく毎日奮闘しております。何分若輩者ですので、今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

細胞治療内科学
竹本 稔

(富山医薬大・平5)

歯科・顎・口腔外科
坂本洋右 (同助教より)

他大学教授就任
筑波大学

整形外科
山崎正志 (昭58)

(千葉大学)

整形外科学准教授より
新潟大学大学院医歯学

総合研究科
循環器学分野

南野 徹 (平元)

(千葉大学循環器

内科学講師より)

厚生労働省
健康局長

矢島鉄也 (昭57)

——若手医師のキャリア・デザイン 医師として働きたい職場とは——

第1回 千葉県医師会 男女共同参画フォーラム

日時 平成25年1月31日 (木) 18:00~19:30
場所 千葉県医師会 第1会議室
千葉市中央区千葉港7-1 TEL043-242-4271
司会
千葉県医師会理事 松岡 かおり
開会
挨拶 千葉県医師会会長 井上 雄 元

特別講演

「女性医師の労働環境問題および千葉大学医学部附属病院の男女共同参画」

千葉大学医学部附属病院長 宮崎 勝 先生

座長 男女共同参画委員会委員長

秋葉 則子

パネルディスカッション

① 勤務医として男女ともに働きやすい職場づくり

国立病院機構千葉医療センター統括診療部長・臨床研修部長 (脳外科医)

石毛 尚起 先生

② 大学における女性医師の就労継続とキャリアアップ促進の試み

筑波大学 医学医療系 産科婦人科学 講師

安部 加奈子 先生

③ 若手医師のキャリアアップとワークライフバランス (成形外科・皮膚科領域)

日本医科大学附属千葉北総病院 形成外科 医局長

橘田 絵里香 先生

座長 男女共同参画委員会副委員長

大川 玲子

閉会

懇親会 【19:30~隣のポートプラザちばホテル (無料)】

お問い合わせ：(社)千葉県医師会 総務課 江口 Tel 043-242-4271 Fax 043-246-3142 E-mail a.eguchi@office-cma.or.jp

名譽教授から

K w a i d a n a g a i n !

山 浦 晶 (昭40)



夏が遠く去る前に、怪談の話しをひとつ。

ラフカディオ・ハーンによるK w a i d a n のことである。

ラフカディオ・ハーンはK w a i d a n が好きでこれまでくりかえし楽しんできた。たまたま朗読座第1回公演「日本の面影」がハーンのK w a i d a n を劇中劇で演じると知り、これは見逃せないと即座にネット上でアプローチした。運良く席がひとつだけ残っていたが、日は千秋楽、席は1-3、最前列の一番左端であった。

「雪女」「耳なし芳一」などを織り交ぜながらも、ハーンが日本ですごした14年間の心の流れを描写するの本来の意図だから、タイトルは「日本の面影」なのである。ハーンはおせつ(小泉せつ)に会った松江から、

熊本、神戸、東京へと移り住んだ。素朴な日本文化、特に地方に残る人情や言い伝えなどを愛したハーンは、その素朴さが急激に押し寄せる近代化とともに失われるのを悲しむ。これが演劇の底辺にあり、構成も見事であった。

おもな俳優は、草刈正雄のハーン、紺野美沙子のおせつなどである。セリフは時に緩徐に、時にたみかける緩急自在さがみごとであった。

しかし、私のお目当てはあくまでも劇中劇K w a i d a n にあった。

ハーンの身の回りの世話をするのがおせつである。おせつがハーンに聴かせた怪談話しなども上手かつたらしい。

「Hochi-the-Earless」であった。若い芳一は貧しく盲目であったが、琵琶の弾き語りになりたいへんすぐれていた。芳一が身を寄せる寺の坊さんが遠くの葬儀に出かけた暑苦しいある夜、甲冑に身を固めた武者の亡霊が現れ、

「やんごとなきお方が評判の芳一の語りを是非にと申しておる。琵琶を持ってすぐに来い」と恐ろしいげな声で言った。どれだけ歩いたか、ある大きなお屋敷とおもわれるところに案内された。

盲目の芳一は、周りに聞こえる衣擦れの音、言葉遣いなどから、いささか高位のお方のお屋敷であると思つた。語りが「壇ノ浦」の場面にいたると、多くのものが

悲しみのあまり泣き叫ぶ声が芳一には聞こえた。武者の亡霊は次の夜も、また次の夜も深夜になると現れた。不審に思う寺男が跡をつけると、芳一はある墓の前で、ふる雨をものともせず琵琶をかき鳴らし「壇ノ浦」を吟唱するのだった。鬼火がいたるところで飛び交っている。その墓は幼くして入水した安徳天皇の墓であった。坊さんが亡霊達から守るために、芳一のからだ中に書き付けたはずの経文。

武者の亡霊には経文のある芳一が見えなかった。ただし両の耳をのぞいて。芳一の両耳は武者の手でむしり取られた。この「耳なし芳一」の話し、皆さんにもきつと記憶があるでしょう。休憩時間にうしろから老夫婦の会話が聞こえてきた。

おじいさんはハーンのK w a i d a n を知らず、おばあさんがこれは劇の中の劇なのだと言つてきかせている。おじいさんは、突然に武者の亡霊が出てきて鬼火が飛んだり、美しくも恐ろしい雪女の場面になったり、ストーリーが分らなくなったのであろう。

演劇には必ず笑いと涙があるようだ。右隣の女性は劇中しきりに泣いていた。私もK w a i d a n の恐ろしくしかも悲しいストーリー

世界シヨック学会連盟会長に就任して

平 澤 博 之 (昭41)



私は、2012年6月にマイアミで開催されました世界シヨック学会連盟 (International Federation of Shock Societies: IFSS) 総会において、第6代目の会長に選出されました。それと同時に4年に1回開催される学

1にしばしば涙した。場内が暗いから遠慮なくハンカチをつかえた。

その後数日間、この演劇の場面が繰り返し私の記憶回路を駆けめぐっていたが、もう一度ハーンのK w a i d a n を読みたくなり、原文を手にいれた。この本にはCDがついており英文朗読も楽しめる。何回聞いても飽きない。

しばらくは、私の怪談熱、観劇熱は続きそうだと。

術集会を2016年に日本で主催することも決定致しました。IFSSの会長に就任するのは日本では勿論のこと、アジアでも初めてです。

IFSSは1993年に設立され、世界中のシヨック学会を傘下におさめています。その主な構成学会には、主としてアメリカとカナダの研究

者からなる米国シヨック学会 (Shock Society of North America)、ヨーロッパ中の研究者が属するヨーロッパシヨック学会 (European Shock Society)、日本シヨック学会 (Japan Shock Society)、そしてブラジル

シヨック学会 (Brazilian Shock Society) などがあります。私の前任者は米国シヨック学会の代表(写真むかつて左)でしたし、私の後任はヨーロッパシヨック学会の代表(写真むかつて右)が内定しています。

IFSSは米国シヨック学会や日本シヨック学会の機関誌でもある、「Shock」という

名前の雑誌を機関誌としていますが、私はその機関誌のSenior Associate Editorを20年以上とつとめています。

シヨックの研究というのは、日本と米国ではかなり様子が違います。まず第一の違いは研究費に関してです。今でも戦争をしている米国では戦傷とも密接に関連しているシヨックの研究に、政府がかなりの額の研究費を出しています。しかし日本ではいわば学際的な研究になりがちでシヨックの研究に関しては、どの領域でも競争的外部資金の研究テーマになかなか採択されにくいという現実があります。また米国では臨床の教室、とくに外科系の教室に多くのPhDが属して、シヨックに関する研究を活性に行っていますが、日本では臨床の教室に属するPhDは現在ではほとんど皆

無といつてもよい程です。それでもなお日本においても特に敗血症性シヨックに関する研究は、免疫学の研究の進歩の恩恵に浴していることもあり、活発に行われています。本学においても、救急集中治療医学や臓器制御外科学で活発に行われて来ましたが、特に血液浄化法を駆使した病因物質の除去を介した敗血症性シヨックの治療の研究に関して本学救急集中治療医学講座は世界のフロントランナーで、世界に誇れる臨床成績を挙げています。また日本シヨック学会の事務局は同講座内にあり、私が事務局長を拝命しています。

日本で国際学術集会を開催するには地理的なことをはじめ色々な困難があります。とくに現在はユーロやドルに対して円が非常に強いので、外国から日本に来る人々にとってはかなり負担が増えてしまうという現実があります。国際学会を主催する身としては、もう少し円安に振られてくれなにかと祈りたい心境です。この国際学会が成功しますよう同窓の諸先生方におかれましては、どうか宜しくご指導、ご支援の程、お願い申し上げます。

千葉大学附属図書館亥鼻分館 「古医書コレクション」と 「るのほな同窓会」

寺澤捷 年(昭45)



いま、わが国は歴史的な大きな決断の時を迎えている。しかし、「決断できない政治」に国民の多くが失望し、将来への不安を感じている。なぜ政治指導者、あるいは優秀な官僚が「決断」できないのか。ズバリそれは「教養の不足」である。

教養とは何か。その第一は歴史・史実を学ぶことであり、音楽・文学・芸術・哲学についての基礎的な知識と理解力を持つことであると、わたしは考えている。

この「古医書コレクション」の主役は眼科学教授の伊東彌恵治先生(1891-1958)である。その教養の深さは遺された資料から垣間見ることが出来る。油彩画は素人の域を脱しており(1)、

麗である(2)。そして医学史にも精通していた。斯界の泰斗・富士川游とも親交が厚く、日本医史学会が昭和9(1934)年に日本医学会の第一号の分科会として加盟した際にも尽力し、5年後の昭和14(1939)年には日本医史学会総会を千葉医科大学で開催している。その際に佐倉順天堂の蔵書の展示を企画したことがこのコレクションの成立にとつて重要な出来事である。しかも、先生は東アジアに留まらず、インドの伝統医学にも探索の意欲を示し、その業績は「スルタ大医典」(鈴木正夫教授が遺稿を引き継ぎ刊行)として結実している。伊東彌恵治先生は沼津中・一高・東京帝国大学医学部を卒業し、28歳(在任1919-1954)で千葉医科大学教授に就任。その翌々年30歳でドイツ留学を二年間経験している。秀才・伊東彌恵治先生は、言わば世界を視野に、医療の本質を「来し方、行く末」の中で求めていた偉大な教養人であったことを、今、知るのである。

とここで、なぜ伊東彌恵治先生が医学史に傾倒したのか。わたしは次のように考えている。第一に、伊東先生が留学した1921年におけるドイツは第一次世界大戦の敗戦後(1919年ヴェルサイユ条約)のことであり、相当に混乱していた。維新以来、尊崇していたドイツの惨状を目の当たりにし、時代の流れを思い知ったこと。第二に、森鷗外が『渋江抽斎』の史伝を1916年から東京日日新聞に連載していたこと。そして第三に祖国日本の、国家としてのアイデンティティを希求したことである。ところで、先生が日本医史学会総会を開催した昭和14(1939)年に学生・藤平健、長濱善夫(昭15卒)らによってサークル「東洋医学研究会」が発足したが、その際に顧問教官を快く引き受けて下さったのも伊東彌恵治先生であった。私事であるが、この「東洋医学研究会」によってわたしは江戸期から継承されてきた漢方と出会い、その後の人生をこの領域に捧げることになった。

教養不足の明治維新政府によって為された「決断」の一つが医学教育政策である。明治政府の急務は「欧米列強に追いつき追い越せ」の悲願のもとに、わが国の近代化に取り組んだ。医学教育に関して言えば、ドイツ人医師(当時はプロシヤ)レオポルド・ミュレルとテオドル・ホフマンを大学東校(東京大学医学部の前身)に招聘したのである。明治4(1871)年のことであった。彼らが普仏戦争のために来日できなかった4年間、大学東校は佐藤尚中(1827-1882)を中心とする先覚者がこの大変革を担っていた。ところが、この二人の外国人教師はその医学生生の3割を不適格者として退学させる事態を招いたのである。佐藤尚中は政府に対して建議書を提出すると共に、大学東校を辞任。そしてこの不適格者として退学させられた医学生と、この国の医療の未来を熟慮し「順天堂大学」の前身を創設したのである。この史実こそが、「古医書コレクション」の一つのキーワードである。この佐倉順天堂の蔵書(400冊)が昭和25(1950)年に佐倉順天堂の佐藤恒二院長から伊東彌恵治教授(コレクション)に譲渡されたのである。

佐藤恒二院長の心意と東京帝大医学部出身の伊東彌恵治教授の肝胆相照らす出会い。幕末の西郷隆盛と勝海舟に匹敵する緊張感をこのコレクションから感じるのである。佐藤泰然(1804-1872)とその養子・尚中らが目指したのは、伝統的な漢方医学の智慧と先進的な西洋医学を如何に活用し、この国独自の医療を作り上げて行くかを考えていたことである。その証拠に、移譲された古医書の半数以上は漢方の革命児・吉益東洞とそれに関連する非常に貴重な、日本に数冊しか現存しない書籍である。司馬遼太郎史観にわたしは反旗を翻したい。佐藤泰然らは、政治的に漢方との対決はしたが、決してオランダ医学のみを金科玉条としていたのではない。そのことをこの「コレクション」は物語っている。結論的に言えば、佐藤尚中の医療哲学を基軸にしていたならば、わが国の医療内容は相当に異なっており、常に全体性の中での部分という認識を土台に為される医療システムとなっていたであろう事である。

「無知蒙昧な東洋の小国(日本)に近代プロシヤ医学の叡智を授けてあげよう」と考えたホフマンやミュレルと佐藤尚中の対立は医療哲学の根本に関わるものであった。当時の維新政府は、旧弊を破棄するというテーゼの元に「植民地的隷属関係」を積極的に採用したのである。維新政府のヒステリックな「決断」。それは思想統一のための廃仏毀釈に端的に現れている。わたしは昨年、安芸の宮島・厳島神社に参詣したが、その東隣にある大願寺(真言宗)を尋ねた。そこには、宮島の諸所にあつた仏像(たとえば薬師堂に祀られていた薬師如来像)が木端微塵に打ち壊されたものが、丹念に修復され一堂にお祀りされていた。なんとという愚かな「決断」が時の政府によって為されたのだろう。わたしはその愚かさを、具体的にこの目で知ったのである。

さて、時代を先の大戦に戻す。大戦中の昭和18(1943)年。九十九里浜に米軍が上陸する危機感が高まった。30年以上の歴史を持つ茂原市の「永吉の眼科・千葉家」(昭43年卒・千葉彌幸、昭48年卒・千葉次郎両先生の尊父保次、尊祖父・千葉江風)はその貴重な蔵書が戦火に消失することを恐れ、伊東彌恵治教授に膨大、かつ貴重な蔵書約1000冊を無償で寄託された。それは伊東彌恵治先生の医学への取り組みが真摯であったが故になされたものとわたしは考えている。この千葉家旧蔵本の内容を見て驚くことは、「眼科医」が極めて深く「内科学」に関心を払っていたことである。華岡青洲(1760-1835)の墓碑銘に「内外一理、古に泥すれば今に通ずべからず、内を略して外に治すべからず」と記されている。つまり、「外科も内科も治療においては共通の道理がある。古い知識に拘泥しては、現在の治療に万全とは言えない。内科的な全身状態を疎かにしては、外科的治療は出来ない」という意味である。華岡青洲は吉益東洞の孫弟子であった。眼科医であった千葉氏は歴代、眼科という専門領域を遂行しながら、「生体の全体の中の眼科」という広い視点を持っていたことが理解できる。そしてその旧蔵本はわが国に数冊しか遺されていない文化遺産を数多く含むものである、感慨を禁じ得ない。

この亥鼻分館「古医書コレクション」の素晴らしさは、江戸期から明治初期の

医学書を取載している点で世界に誇れるものである。司馬遼太郎の『胡蝶の夢』の時代から近代医学が誕生するその過渡期の著作が特に多いコレクションという点で他に例を見ない。

しかも驚嘆すべきことは、「東洋医学研究会」の学生であった石津谷義昭君（昭57年卒）などの「学生」が目録作りの発端を作り、それを橋正道分館長がその意義を正しく評価し、「古医書コレクション目録」が書誌学者・樋口誠太郎先生の15年以上に亘るご努力によって2007年に全書籍の内容紹介が簡潔に記され公刊されたことである。この「目録」の「あとがき」には付属図書館情報サービス専門官・五十嵐裕二氏の名が記されている。図書館事務方の絶大な支援があったことも記さなければならぬ。歴代分館長の嶋田裕教授、安達恵美子教授、関谷宗英教授の並々ならぬご努力が連続と継代され、さらに瀧口正樹分館長はWeb公開の道を拓き、清水栄司分館長がこれを受け継ぎ推進。現在ではWebサイト（3）で主要文献が閲覧できるまでに整備されている。まことに奇蹟的ともいえるこの大事業である。これには莫大な資金

が投入されており、しかも「ゐのはな同窓会」と「千葉医学会」がこの支援を最終的に思っている。

追記：この電子化公開作業は今後、十数年を要すると考えられるが、亥鼻分館・学術コンテンツ課によって現在も進行中である。この

「ゐのはな同窓会」と「千葉医学会」がこの支援を最終的に思っている。追記：この電子化公開作業は今後、十数年を要すると考えられるが、亥鼻分館・学術コンテンツ課によって現在も進行中である。この

雑文雑談 千葉氏の事

石出猛史（昭52）

しは母校・千葉大学医学部と「ゐのはな同窓会」を誇りに思う。

事業は医学史研究者から極めて高い評価を得ている。千葉大学医学部の品格を象徴する事業であることを付記する。

- (1) 伊東弥恵治先生記念出版編集委員会：伊東弥恵治先生 鈴木宜
- (2) 民、1959 果甫伊東彌恵治、行書七絶：www.ic.daito.ac.jp/~oukudou/gallery/pic-1904.html
- (3) Webサイト：亥鼻分館古医書コレクション検索

千葉県の歴史を語るうえで欠くことができないのが千葉氏である。千葉氏は大族である。その支族は20を越えるといわれている。千葉氏は桓武平氏と呼ばれる武士団の一つである。桓武平氏とは第50代桓武天皇の曾孫高望が、「平」姓を賜って臣下した本邦最古の武士団である。その嫡男良望（国香）の子孫が平清盛で、次男良将の長子が天慶二年（939）におこった「将門の乱」で知られる平将門である。五男の村岡五郎事平良文は鎮守府将軍、陸奥の守上総・下総・常陸介を務めた。その子孫は「良文系平氏」と呼ばれ、千葉・上総・三浦・土肥・畠山・大庭・梶原・長尾を「坂東八平氏」と称し、千葉氏はその筆頭

に位置づけられている。『千葉大系図』には良文について「当家ヲ武臣ノ祖ト為ス」とある。将門が父の遺領を巡って叔父良望と争った際、良文は良望側についていたとも将門側についていたとも両説ある。将門は良望を討った後、下総国猿島郡で「新皇」と称して朝廷に反旗を翻えすが、良望の長子貞盛と藤原秀郷によって誅伐された。妙見信仰は良文の代から始まったとされる。良文の嫡孫忠常は上総介・武蔵押領使などを補任したが房総を支配する大豪族であり、官物の未進・横領など専横を振るつたため、朝廷から追討の兵が出された（平忠常の乱・長元の乱1028）。上総国の耕作田2万2千9百80町がわずかに18町に

減少したほどの荒廃をもたらした3年にわたる大乱であった。源頼信に従って乱の鎮圧にあたった平維幹（良望の次男繁盛の子）を忠常が「先祖の敵也」と敵視し繁盛は忠常の父を「彼旧敵」と呼んでいることから、この乱は良望と良文の代からの抗争が関わっているという説もある。忠常は決戦を行わずに頼信の軍門に下つた後病死したが、子孫・所領共に安堵された。

忠常の長子常将が千葉郡に居を定め千葉姓を名乗つたのが、一般に千葉氏の起源とされている。その第五代千葉氏が「千葉氏中興の祖」といわれた常胤である。下総権介に補任し、相馬郡司も兼ねた。源頼朝が石橋山の合戦で敗れて安房に逃れてきた際、最初に参陣した豪族が常胤である。6人の子息と嫡孫成胤以下300騎を率いて参戦した。幕府の樹立に最も功があり、頼朝をして「功臣を賞するには常に常胤を以つて首となすべし」といわしめ、また「鎌倉時代武人の典型たり」とも賞された。源平合戦というが、良文系平氏と良望系平氏の覇権争いでもあった。頼朝が平家打倒の拳兵をした際、真先に馳せ参じたのが和田義盛と三浦義明である。両者共良文の子孫である。頼朝の妻政子の父で幕府執権北条時政は平貞盛の次男維将の子孫である。従って平清盛と同系の良望系平氏である。鎌倉幕府の内実は坂東平氏に牛耳られていたのである。幕府で枢要な位置にいた和田三浦・梶原の諸氏は北条氏によって滅された。ここでも良文系平氏と良望系平氏の闘争があった。

元弘3年（1333）執権北条氏の一族は新田義貞の軍勢によって滅ぼされた。この時千葉氏第12代胤胤は新田軍に与し北条氏の滅亡に役を買った。良文系平氏と良望系平氏の最終決戦といつてよいであろう。千葉氏は千葉氏四天王（原・圓城寺・鐮木・石出或は木内）ら有力な支族に支えられたが、室町時代に入ると一族の内紛などによって弱体化していった。最後の当主第27代重胤は寛永10年（1633）江戸の陋屋で没した。しかし支族の相馬・遠藤（東）両氏は江戸幕府下大名となり、石出帯刀・牛袋・東・高樋・大塚・海上・町奉行所与力の原など幕府の直参となった者も少なくない。

その季節、その瞬間の旬を味わっていただくためにどうぞ、おいしい舞台へ。

し 銚子丸

全64店舗 千葉24店舗 東京24店舗 埼玉12店舗 神奈川4店舗



各地のなな会 だより

第11回 聖路加のなな会

第11回聖路加のなな会が平成24年6月22日、東京都中央区水天宫アルポにて行われました。

同会は聖路加国際病院に勤務経験のある千葉大学関連の先生方で構成されている会で、放射線科松迫先生を幹事に年2回開催しております。

聖路加国際病院は、1902年(明治35年)米国聖公会の宣教医師であるルドルフ・トイスラー博士によって創設されました。本年、医療の質、患者安全の改善を目的としたJoint commission internationalの認証を国内で3番目に受け、真の国際性を目指し日々努力しているところです。附属施設として、予防医療センターに加えて、メディロカスが今秋大手町にオープンします。

当日は循環器内科丹羽部長をはじめ12名が参加し、ワインを酌み交わしながら日頃の診療、大学時代の想い出話や大学の現在の状況



などを語り合い、大いに盛り上がりました。診療科を超えていろいろな情報を交換でき、親睦を深められる楽しい会となりました。

当院は臨床研修病院として教育にも力をいれております。今後も多くの卒業生が当院での研修を希望されることをお待ちしております。これから当院にいられたら、是非一緒に聖路加のなな会で楽しいひとときをお過ごしただければと思います。

写真右から

前列・新保正貴(平11)、丹羽公一郎(昭51)、松迫正樹(昭62)、矢形寛(金沢大・平2)

後列・春日章良(平15)、尾辻瑞人(平2)、小林信雄(平3)、佐藤真洋(平21)、

野村征太郎(平17)、金子絵里(平22)

(佐藤 真洋)

第12回 東京のなな耳鼻科医会

平成24年8月3日に銀座2丁目のホテルモントレにて第12回東京のなな耳鼻科医会が開催されました。今回の勉強会としての講演は「花粉症の今年の動向」として自由が丘で開業され、

本会の幹事もされている笠井創先生(昭52)が解説され、次いで、稲毛で「耳鼻咽喉科サージセンターちば」を開設されている遊座潤先生(昭62)から、現在、山中康久先生(昭63)とともに診療をされていること、診療・手術の状況、センターの特徴などについて講演をいただきました。耳鼻咽喉科診療所で手術を行うことは難しいことですが、同窓ではこれまで埼玉で開業されている時田信博先生(昭43)、土浦の結束温先生(昭46)、市原の片橋立秋先生(昭61)がおられ活躍されています。講演会の後は例年通り笠井幹事と私の司会で懇親会が開かれ、神田敬先生(昭35)、宮下久夫先生(昭38)からは乾杯のご発声やご挨拶をいただき、

駒込病院をはじめ参加者ほぼ全員から近況報告がなされました。会終了後には有志で2次会と流れさらに楽しい会となりました。出席者の出身大学は様々ですが、卒年順に神田敬(昭35)、宮下久夫(昭38)、結束温(昭46)、夜久有慈(昭50)、猿田敏行(昭51)、笠井創(昭52)、吉原俊雄(昭53)、和田二郎(昭53)、諸田英夫(昭55)、永田博史(昭57)、三浦巧(昭57)、大谷地直樹(昭58)、日野剛(昭58)、加藤雄一(昭58)、野本実(昭58)、中村宏(昭59)、三橋敏雄(昭59)、本杉英昭(昭62)、藤原剛(昭63)、山中康久(昭63)、晝間清(平元)、柴啓介(平2)、左内明子(平3)、吉田耕(平3)、山村幸江(平3)、鈴木一雅(平4)、岩本容武(平5)、小林伸宏(平5)、武藤博之(平6)、大谷聡(平7)、留守卓也(平7)、小野健一(平12)、岡良和(平14)、瀬尾友佳子(平17)、渡部涼子(平18)、鯨井桂子(平19)、小野英莉香(平20)、杉崎洋紀(平21)、森下裕史(平21)、柳嘉典(平21)が参加し益々若返った会となりました。来年5月には吉原が日耳鼻総会(札幌)で宿題報告予定のため、本会からのサポート、祝賀会な



どのお話しも皆様からいただきました。また来年の夏さらに充実した会となるよ

う企画していくことになりました。

(吉原俊雄)

安房あのはな会

平成24年9月5日(水)、平成24年度安房あのはな会総会・講演会が、千葉大学大学院医学研究院循環器内科学教授小林欣夫先生をお招きし、富浦ロイヤルホテルにて開催されました。総会では会長の青木謙先生より御挨拶をいただき、その後渡辺より会計報告、原久弥先生より監査報告が行われましたが、青木会長のお話にもあつたように今後の安房あのはな会の充実が期待されることです。

講演会では小林教授に「虚血性心疾患の2次予防を考えるー患者さんとの会話を楽しむためにー」と題して、時々お嬢さんの写真などを入れながら、大変わかりやすく楽しい御講演をしていただきました。座長はバスケット部の後輩の天野晋先生が務めました。動脈硬化は10、20代から姑まつている、今後の老人は若い頃から豊かな食生活を送っているので動脈硬化が増える、運動をしていないから痩せられないのではなく、食べ過ぎてから痩せられない、あまり食べていないのに：ではなく食べ過ぎを自覚していない等、はつ



とさせられることが沢山ありました。肥満の手術、BMIと死亡の関係、食事の話、コーヒー・紅茶・緑茶と血管疾患、運動や結婚等と疾患等との関係、喫煙・飲酒と血管イベント等々、興味深くまた再認識させられる内容でした。その後、別室に部屋を移

し、全員で小林教授を囲んで記念撮影を行った後、貴家昭而先生の乾杯の御発声で懇親会となり、楽しい一時を過ごしました。

写真右から
前列：渡辺啓治(昭61)、青木謙(昭36)、貴家昭而(昭30)、小林欣夫教授(昭63)、本位田泰介(昭28)、西川義

千葉 蓮池
丸万壽司
千葉市中央区中央3-7-11 〒260-0013
TEL.043(222)3414 FAX.043(225)5335
<http://www.maruman-sushi.com/> Eメール:mail@maruman-sushi.com

開催予定の行事をお知らせください
学会、研究会、あのはな会、クラス会など種々の行事開催予定とその内容について同窓会事務局へお知らせ下さい。本会報に掲載致します。なお、本会報の発行月は1月、5月および9月です。

明(昭34)、原久弥(昭34) 後列：水谷正彦(昭52)、関谷信平(昭38)、伊賀寧(聖マリ・平2)、林宗寛(昭60)、黒野隆(東海・昭59)、武内重樹(北里・昭53)、辻博勝(平2)、天野晋(平3)

(渡辺啓治)

「だれにでも優しいホテル」
私達のサービスはここからはじまる・・・



仲間たちとの再会、家族のお祝い、特別な日はミラマーレで
京成線千葉中央駅直結 JR千葉駅から徒歩約8分
京成ホテルミラマーレ
《ご予約・お問合せ》TEL:043-222-2111
千葉市中央区本千葉町15-1 <http://www.miramare.co.jp>

クラス会

昭三一會 (昭31)

この度卒業後56年になります、恒例のクラス会を10月20日(土)午後4時より東武ホテルレバンタ東京にて開催いたしました。

クラスの会員数41名、物故者39名で約半数が他界し寂しい限りです。

本日の出席者は会員15名、奥様方3名でした。

開会は幹事の海老原雄一君の司会で始まり、事務局の小野清四郎君より会務報告がなされました。次いで今年度物故者は遠藤光夫、川上秀一、鈴木通也、宮川栄次、斎藤実の5君が報告され、黙祷を捧げ冥福を祈りました。

次いで紅一点の上原すゞ子さんの乾杯の発声で会を始めました。我々も八十路を過ぎ、第一線より退き、余生を悠々自適、趣味や旅行を楽しんでいるよう見受けられました。

和気藹々時間を忘れて談笑し明日への活力を貰って散会しました。

次回幹事は小野清四郎君、松久信太郎両君です。多数の皆さんの出席を願います。



写真右から

前列：関光倫、神尾鋭、庵原夫人、小野夫人、五味潤夫人、五味潤一、香田真一、松丸信太郎、上原すゞ子

後列：小野清四郎、高野昇

海老原雄一、李保文彦、蟹沢成好、井幡宏、北川定謙、庵原昭一、山野元 (井幡 宏)

さんろく会 (昭36)

平成24年10月14日、さんろく会(昭和36年卒)は川越市で卒業後51年の集まりを開いた。昨年11月の卒業50年を祝うさんろく会の席で、翌年は埼玉県が担当するようというご指名があり、現在もしくは過去に埼玉と繋がりを持つ石下峻一郎、栗原正明、谷合明、田部井徹、藤塚立夫、松本生が幹事を務めることになった。

この六人が今年の1月に会食を兼ねて顔を合わせ、どういう会にするか打ち合わせた。埼玉は首都圏の一角なので、アクセスの良い都内もひとつの選択肢であったが前回が都内であったこともあり、折角なら埼玉らしい雰囲気を感じられる場所ということで秩父、長瀬、川越などが候補に上がったのだが、結局、交通の利便性も考慮にいたれた結果、西武新宿線、東武東上線、JR埼京線の駅がある一方で小江戸と呼ばれる古い蔵造りの町並みが残る川越で開くことに決まった。

島崎藤村が作品の執筆に何度も逗留し、第39期将棋名人戦で中原名人と桐山八段の対局の場となった老舗の割烹旅館を会場に設定し



で開くことに決定して散会となった。会場も決まったのだが、そこは次回の幹事が提案した実に時を得た場所なので、会員だけの楽しみにさせていただいて、ここには書かない。

写真右から
前列：藤塚立夫、谷合明、松本生、栗原正明、石下峻一郎、野尻雅美、黒田健昭
中列：今野夫人、塚原夫人、谷合夫人、三宅伊豫子、副島訓子、長谷川幸子、宮代道子、川村孝子、
後列：前嶋清、青木謹、齋藤利隆、長谷川修司、野本一夫、川村光毅、今野昭義、塚原重雄、関幸雄、小池宏之、田部井徹 (松本 生)

入学50周年記念同窓会 (昭43)

私達は昭和37年(1962年)入学、昭和43年(1968年)卒業の学年です。本年8月26日(日)に東京の「八重洲富士屋ホテル」にて同窓会を開催しました。勿論昭和37年以前の入学であっても、卒業が一緒ならば同窓会に出席するのが原則です。今回は入学50周年の記念同窓会との事で、盛幹事長もかなり力を入れて準備していた様に思われました。その

併せて26名が参加し、午前中はガイドを付けて川越の古い町並みを散策して午後には宴席となった。卒業51年となれば夫人を除いて全員が後期高齢者健康保険証の所有者であるが、酒が入って談笑が始まれば歳月はたちまち消えて学生時代に帰り、またたく間に時間が経過した。

来年のさんろく会は東京

結果、出席者は総勢47名を数え、同級生の過半数が出席と好評でした。只、参加を表明していたにもかかわらず、台風が接近中との事で飛行機が飛ばずに参加できなかった沖繩の同窓生も居て、チョット残念ではありましたが、これは仕方のない事と諦めざるを得ませんでした。いずれにしてもタイ国からはパンロップ君、そして、上海からはヨンさん、林さんご夫妻も参加して、盛大に開催されました。残念ながら、同窓会に参加を表明しながら、突然に急死した川村功君をはじめ、既に他界した同級生に哀悼の意を表すべく幹事長の盛君からの指示で黙祷をした後に開式されたのは言うまでもありません。



私達の同窓会では乾杯は通常一番遠くから来た人にしてもらうのが習いとなっていますが、今回はパンロップ君とヨンさんが一緒に登壇し、各々の短い挨拶の後での乾杯となりました。その後は当然の如く各テーブル毎の歓談で大いに盛り上がりつつありました。アルコールが回って来ると久し振りに会ったにも関わらず、昔から同じ様な姿恰好をしていたのではないかと錯覚するほどに違和感が無かつ

たのですから、同級生とは不思議なものであり、又嬉しい事であると思われましただけでは無かったと思えます。今回は既に画家として暫くしてから短い自己紹介が始まり、各々の現況が報告されました。皆各方面で頑張つて来てはいるが、既に現役を引退した人も何人かいて、各々楽しく過ごしている状況が報告されました。一方自分を含め、古

希を迎えても多くが現役で頑張っている事を知り、大いに頼もしく感じたのは私だけでは無かったと思えます。今回は既に画家としても名声を博しているヨンスンが自分の作品の集大成ともいえる立派な画集を発売したのに伴い、全員に一冊ずつプレゼントされましたが、御承知の方も居るかと思われませんが、千葉大医学部の図書館にも43卒有志からの寄贈と言う形で一点展示されているのでその評価の高さは広く認められています。

昭和44年卒クラス会
四十四年卒のクラス会は、今年七月七日、八日の二日間に亘り行われました。我々のクラス会は、ここ数年間は毎年、海の日に開催しており、また開催地も千葉県外で各地在住者が順番に幹事を担当して行ってきました。しかし、昨年は震災の復興を按じて休会としましたので、今年も県外の開催を期待しましたが、県外幹事の担当はほぼ一巡しており、今年も千葉で行いました。



日程は例年のとおり、初日はパーティー、翌日はゴルフコンペを行っています。パーティーは京成ホテル・ミラマーレで、ゴルフは南総カントリークラブで行われました。参加人数はパーティーに42名、コンペには18名でした。クラス会員数は、卒後から今日までに物故者が十名になってしまい、現在数は八十五名ですから、出席率は約五割になります。参加者が常連さんに固定されているのは同窓会の宿命でしょうか。

会に先立ち、新たな物故者・和田力君に黙祷を捧げました。その後は参加者各

(中村 宏)

ルフコンペも例年を超えた楽しいコンペに終了しています。

来年は、篠原君が今回の欠席裁判で幹事当番を指名され、勤務地近くの伊豆で開催されることになりました。

写真右から

- 前列・佐久川輝章、河村弘庸、高良宏明、東山義龍(陳)、奥村夫人、内海夫人、浅野夫人、奥村康、中林清美(張)、西島浩
- 二列目・石川達雄、堀江弘、内海武彦、渡辺孝太郎、園田俊雄、伊東範行、間山素行、土川秀紀、柴橋哲也
- 三列目・星山圭敏、高橋秀禎(山岡)、吉田明弘(彭)、須藤壮一郎、渡辺義郎、吉田操、村山紘、山本夫人
- 四列目・黄田悦子(魏)、河崎純忠、佐藤政教、石渡堅一郎、中川邦夫、西村則之、細井湧一、山本健介
- 最後列・坂本建彦、岡崎壮之、崎尾秀彰、窪田勝也、千本英世、林崎勝武、遠藤政隆、(浅野君は研究会座長終了後に到着)

(石川 達雄)



45同期会

殊の外残暑厳しい中、平成24年9月8日ホテルオークラ東京にて昭和45年卒業の同窓会が開かれた。この一年、物故者が一人もいなかったとの嬉しい報告で会は始まり、各自それぞれ近況を報告した。引き続き現役で仕事を続けている者、



新しい分野の研究に携わっている者、若い医者の教育に国内、外を飛び回っている者、また既に第一線を退きこれまでと違った人生をエンジョイしている者など、楽しいおしゃべりに花が咲いた。次回は千葉での開催を約束してお開きとなった。

写真右から

- 前列・林泰、宮原弘次、中野義澄、榎本純子、細山公

子、宮蘭洋子、花輪孝雄、伴野悠士

- 二列目・中野雅行、天神弘尊、石場俊太郎、篠原信賢、渡辺義二、新倉春男、湯原幹男
- 三列目・橋本英明、榎本正満、古川隆男、済陽高穂、堀内正敏

(榎本純子)

住所変更・勤務先変更された方は同窓会事務局までご連絡ください。
事務局
FAX : 043-202-3753
E-mail : info@inohna.jp

お詫びと訂正

前号 (161号)
12頁
あのはな37クラス会
報告文中
急速↓急速
16頁
平成3年卒同期会写真説明
右から↓左から
24頁
木村文夫
准教授より↓准教授より
お詫びして訂正させていただきます。

第19回日本航空医療学会 公開市民講座開催

国保君津中央病院救命救急センター長

北村 伸哉 (平元)

去る11月9、10日に木更津にて私が会長を務め、第19回日本航空医療学会を開催いたしました。学会終了後の10日午後には本学出身の医師、作家である海堂尊先生(昭63)をお招きし、海堂さんといっしょに君津地域の医療を考える」と題する市民講座が開かれました。私の基調講演(君津地域における救急医療の将来)に続き、海堂先生の記念講演(ドクターヘリが翔ぶ街)が行われ、主催の國松孝次救急ヘリ病院ネットワーク理事長(元警察庁長官)の司会で、青柳博君津木更津医師会長(昭49)、市民団体会長(昭49)の野村和之氏と交え、トークセッションとなり、市民250名あまりと意見交換がなされました。



写真提供 : HEM-Net

ポリエンアモキシシリン系抗菌薬性抗生物質製剤

アムビゾム 点滴静注用50mg

注射用アモキシシリンBリボゾム製剤 (略号:L-AMB) **AmBisome**

製薬会社 (国内総代理店)
大日本住友製薬株式会社
〒541-0045 大阪市中央区船場2-6-6

お問い合わせセンター
☎0120-034-389

販売 GILEAD

大日本住友製薬

効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

2010.4月作成

研修プログラム

神経内科の研修プログラム

神経画像・電気生理専修コースを中心に

千葉大学大学院医学研究院
神経内科学

教授 桑原 聡 (昭59)

神経内科疾患診療の社会的需要はますます増大してきています。アルツハイマー病、脳血管障害、パーキンソン病、神経障害性慢性疼痛、てんかん、が頻度の高い5大神経疾患ですが、このほか大脳から筋に至るまでの多くの疾患について広範な領域をカバーする診療科ですので、日本神経学会専門医の資格を得るのが卒後8年目になります。この時点で一流の神経内科医として臨床を実践できるべく、臨床研修の柱は(1)診断学・部位診断、臨床診断に至る科学的思考を身につけること、(2)特に進歩の著しい神経画像診断と電気生理学的診断の技術と解釈に精通すること、(3)神経治療学・分子標的を含めた最先端までの治療を実践できることの3点を重視しています。

神経内科専門医育成のためのプログラムとして具体的には3〜6ヶ月間病棟業務をフリーにする期間をもつて、神経画像、電気生理、神経病理、ボツリヌス治療を集中して研修する効果的な専門医育成プログラムを実践しています。これにより、脳機能画像を理論から理解して専門家にふさわしい深い読影・解釈能力を習得できます。筋電図・誘発電位は芸術ともいえる技術のもと診断に直結する所見を得ることができ、ボツリヌス治療は近年爆発的に臨床応用されている治療技術であり、不随意運動・痙性を劇的に改善できる現代医として必須の治療技術です。神経病理も病棟の日常業務の中ではなかなか系統的な知識を得るには困難です。さらに、すでに始まりつつある分子標的療法として球脊髄性筋萎縮症(抗アンドロゲン療法)、アルツハイマー病(抗アミロイドモノクローナル抗体)、POEMS症候群(抗VEGF療法)、近々将来実現

心臓血管外科研修プログラム

千葉大学大学院医学研究院
心臓血管外科

教授 松宮 護 郎 (大阪大・昭61)

近年、生活の欧米化、社会の高齢化などに伴い心臓血管疾患罹患率の増加が認められます。それとともに心臓血管外科手術は増加の一途をたどっています。内科領域で行われる血管内治療のみが増加し心臓外科手術は減っているのではと誤解されている先生方もおられますが、学会統計では過去10年間で心臓大血管手術数は40%以上増加しています。

当科への紹介患者も増加しており、今年が開心術が200例を超え、3年前に比べ2倍以上に増える見込みです。これは多くの千葉大学関連病院でも見られる傾向です。質の面でも、完全血行再建を目指した冠動脈バイパス術、可及的に自己弁を温存する弁形成術、心房細動に対するメイズ手術、左室形成術などを複合した手術が大半を占めており、

多くの外科手術が機械に(自動吻合器など)置き換わる中で、心臓血管外科は未だに外科らしい外科、すなわち切ったり縫ったりという手技が一番残っている領域で、手術は大変ですが楽しさを実感できると思います。一方で、様々な人工臓器を使った治療、移植、再生医療など先進医療に触れる機会も多く、新しい外科治療法開発の可能性が多く残された分野であると思います。もう一つの大きな特徴は悪性腫瘍が対象になることがほとんどないという点です。循環器系の機能予後を改善することが目的であるため、症状、生活の質の改善といった手術効果が見えやすく、達成感を感じることができると思います。

また、心臓血管外科手術成績には、外科の技術のみでなく、麻酔、循環器内科、集中治療、消化器、代謝内分分泌、血液、感染などあらゆる臨床医学分野の総合力が効いてくるもので、特に重症例になればなるほどその傾向が強くなります。したがって心臓血管外科の修練により、おのずと循環管理をはじめとする全身管理に精通することになりますし、そうなるよう教育をしております。我々と一緒に

千葉労災病院

副院長・勤労者脊椎腰痛センター長
千葉大学医学部臨床教授

山縣 正庸 (昭52)

千葉労災病院は市原市にあります。千葉市との境に位置し、内房線八幡宿駅からバスで約20分、京成電鉄・千原線ちはら台駅からタクシーで約10分、辰巳台という高台にあります。千葉大学病院からは車で約30分ほど着きます。京葉工業地帯の事業所が増加発展する中、勤労者の医療を担うべく全国で32番目の労災病院として昭和40年に300床、10診療科の規模で診療を開始しました。昭和49年には千葉労災看護専門学校を併設し、昭和54年には400床に増床、その後、診療科の新設が続き現在では19診療科を有する総合病院となっております。



た平成19年には地域医療支援病院として承認、平成22年には地

がりがいいを共有し、新しい医療に挑戦してみませんか。多くの熱意あふれる千葉大学卒業生が心臓血管外科に興味を持ってください。

模の病院でありながら高機能の手術室を持つことを目指しています。今後発展性の高い内視鏡システム、ナビゲーション、術中(C)装置など有しよりレベルの高い診療を目指しています。

当院の千葉大学からの医師は、院長代理兼呼吸器センター、アスベスト疾患センター、センター長・由佐俊和(昭51、呼吸器外科)、泌尿器科部長・柳 重行(昭50)、精神科部長・宮本隆一(昭51)、副院長兼勤務者脊椎・腰痛センターセンター長・山縣正庸(昭52、整形外科)、小児科部長・宮本治子(昭54、鹿児島大)、麻酔科部長・伊澤英次(昭54)、内科部長・国友史雄(昭55、埼玉医大)、外科部長兼消化器外科部長・宇田川郁夫(昭55)、糖尿病内分

泌内科部長・三村正裕(昭56)、小児科部長・鈴木宏(昭56、新潟大)、リハビリテーション部長・小沢義典(昭57、脳外科)、耳鼻咽喉科部長・角南滋子(昭57、鳥取大)、歯科口腔外科部長・馬橋敏紀(昭57、城西大)、呼吸器内科部長・山本司(昭58)、整形外科部長兼人工関節センターセンター長・清水耕(昭59)、消化器内科部長・田中武継(昭59、滋賀医大)、神経内科部

長・上司郁男(昭59、滋賀医大)、呼吸器外科部長兼がん診療推進部長・安川朋久(昭62)、循環器科部長・山内雅人(昭62)、脳神経外科部長・三枝敏史(昭62)、南出雅弘(昭63、山形大)、眼科部長・高綱陽子(昭63、富山大)、整形外科部長・池田義和(平元)、整形外科部長・中島文毅(平元)、外科部長・安富淳(平2、金沢大)、外科部長・草塩公彦(平3)、病理科部長・尾崎大介(平3、弘前大)、産婦人科・藤村尚代(平8、山梨大)をはじめ常勤86名中40名が在職しておりまた初期研修医総数12名中、千葉大学卒業生3名が研修を行っています。当院は平成24年4月に卒後臨床研修評価機構(CBE)の認定を千葉県で2番目(4年の認定を受けた医療機関では初めて)に受けています。第三者からの評価を受けることで、常にプログラムの検証・改善を行うため、プログラム自体の質的向上に役立ち、研修医にとって質の担保された研修が可能となっています。1年目研修は必修科目である内科を6か月間、救急医療を3か月間研修し、残りの3か月間を選択必修科目として外科、麻酔科、小児科、産婦人科、精神科

の中から少なくとも2科目を選択研修することができ、2年目研修では地域医療研修を1か月間、残りの11か月間を選択科目として当院の臨床科目の中から選択できますが、各々の研修期間は最少1か月から最長11か月となっております。各研修医の希望に添える選択性が広がっています。研修の特徴は臓器別診療に偏らない総合内科研修の体制を組んでいること、産業界の研修が可能で、勤労者の健康管理、環境管理の研修があり、認定産業界資格が取得可能です。また救急

医療についてはBLS、ACLS講習を院内で受講でき、専属の指導医のもと、救急医療の研修が可能であることです。

労災病院グループとして研修医のみの研究会発表、その他各臨床科での病院内の学術発表、論文発表にも力を入れており、臨床研修のみならず学術的に研鑽も可能な環境を提供しています。各診療科の垣根のない協力体制から全人的な密度の濃い臨床研修が可能で将来の専門科に進むにおいても有益な研修が提供できることが自慢です。

研修医だより

後期研修について

千葉大学医学部附属病院麻酔・疼痛・緩和医療科

國分 宙(平22)



このような場所に原稿を書く機会を頂きまして非常に光栄です。私は現在、千葉大学医学部附属病院麻酔・疼痛・緩和医療科にて

誘を受けたこともあり、麻酔科に入局することに決めました。

初期研修で麻酔科をローテートしていた際に、私が一番やりがいを感じた瞬間は、患者さんが痛みや寒さ、吐き気など感じることなく、穏やかに麻酔から覚ますことができた時でした。特に全身麻酔を初めて受ける患者さんは、術前の不安が強いのことが多いです。そのような方が、麻酔から覚めたときに「もう手術終わったんですか?全然痛くないです。ありがとうございます。ありがとうございました」と言ってくださったときは、非常に嬉しく思い、やりがいを感じました。

しかし、もちろん全ての症例でそのようにはうまくいくわけではなく、暴れてしまうほど痛がってしまったり、シバリングを発生させてしまったこともありました。それらを反省し、原因を考え、次の症例に生かしていくことが麻酔科の仕事だと思えます。

また、もう一つ、麻酔科の魅力として挙げられるのは、生まれたばかりの新生児、妊婦、90歳を超える高齢者など幅広い患者さんの管理ができる点だと思います。確かに麻酔科は主治医になるわけではなく、患者

さんとの関わりは他科と比較すると薄いかもしれませんが、幅広い患者さんの様々な手術における管理ができるというのは非常に面白い点だと私は思います。

最後にありますが、現在千葉大の麻酔科は私も含めて若い医師が多く、非常に雰囲気がいいと思います。昨年からは手術室が増えて業務は忙しいですが、皆で協力しており、楽しく仕事ができる環境です。少しでも興味のある方はぜひ見学にいらして下さい。

私もまだまだ手術麻酔に専念している状況であり、詳しいことは書けませんが、痛みの治療にも興味があり、いずれはペインクリニックに携わることができたらと思っています。

これまでも手術室での麻酔業務についてのみ、書いてきましたが、千葉大では他に緩和医療・ペインクリニックにも力を入れています。

最後にありますが、現在千葉大の麻酔科は私も含めて若い医師が多く、非常に雰囲気がいいと思います。昨年からは手術室が増えて業務は忙しいですが、皆で協力しており、楽しく仕事ができる環境です。少しでも興味のある方はぜひ見学にいらして下さい。

大切な命。その一秒のために!!

Portable Clinical Analyzer POCT血液分析器

i-STAT1 アイスタット1



大切な命。その一秒のために!!

○から上詳しい情報をお求めの場合は、下記までご連絡ください。

扶桑薬品工業株式会社
本社：i-STAT特設センター
TEL: 06-6999-1121

扶桑薬品工業株式会社 アボット ポイントオブケア インク

学内情報

ゐのはな同窓会支援

第7回亥鼻キャンパス留学生交流会

分子生体制御学 木村 定雄
生命情報科学 田村 裕

平成24年11月2日(金)午後6時～8時30分、ゐのはな同窓会館において「第7回亥鼻キャンパス留学生交流会」を開催しました。昨年、医薬系総合研究棟の第II棟が9月に完成し、千葉大学の医療系3学部(医学部、薬学部、看護学部)と真菌医学研究センターが亥鼻キャンパスについて統合されました。それに伴って、海外からの留学生・研究者も総計87名と大幅に増加しました。その結果、今回は、西千葉地区の参加者も含めて、本学の教員・職員・学生と14ヶ国(香港・ウイグル自治区を含む中国、台湾、バングラデッシュ、インドネシア、ネパール、韓国、ロシア、フィリピン、ナイジェリア、フィジー、タイ、スーダン、キューバ)からの留学生とそのご家族を併せて総勢128名の参加があり、昨年(104名)を大幅に更新する交流会になりました。今年は留学生・研究

者61名とご家族・子供さん14名が参加されました。同窓会館が本場に狭く感じられるほどの盛況で、新しい同窓会館の建設が待ち遠しく感じました。医学部から中谷晴昭医学研究院長、看護学部から正木治恵看護学研究科長、野崎章子講師、薬学部から山本恵司理事、荒野泰薬学研究院長、西田篤司前薬学研究院長、山本友子医学薬学府長、根矢三郎教授、真菌医学研究センターから川本進教授、国際教育センターから見城悌治准教授など多数のご出席をいただきました。

今回は、アトラクションとして、日本伝統の和太鼓で、地元「千葉城太鼓」の8名の皆さんによる実演が披露されました。言葉がなくても通じる和太鼓の響きに多数のみなさんは童心に帰って和太鼓を楽しんでおられました。実演後に多数の留学生と子供さんが太鼓のたたき方を教わってた



たいておられました。毎年綿菓子作りも好評で、会場は笑いと歓声と拍手が絶えず、とくに子供さんの笑顔がとても輝いて見えました。留学生の自己紹介をと思いましたが、あまりのたくさん的人数でなにもできないままでした。第1回の

交流会から参加しているキューバの留学生が足を骨折したにも関わらず参加して、こんな楽しい交流会は本当にうれいのです、来年が卒業で今年が最後で残念だなあと話していたのが印象的でした。留学生の子供さんが毎年顔を合わすたびに背

丈が伸びてお兄さんお姉さんに大きく成長しているのがよくわかりました。留学生のみなさんからこの交流会には帰国してからも参加したいという話を聴くと、交流会は年1回ですがやっぱり大切な憩いと出合いの場所という思いがしました。

交流会途中の集合記念写真にはこれまでで最高の91名が写っています。毎年交流会の多数の写真は亥鼻地区の桜の風景・建物の写真と共にCDとして無料で留学生全員に記念に配布しています。また、今年は交流会の記録ムービーがゐのはな同窓会のホームページ(オンライン会報)でも見られます。ぜひオンライン会報とCDをご覧下さい。皆さんの笑顔がともすてきです。

今後とも、新しい若い世代との交流の場として、日本でのよりよい学生生活・研究生活の想い出となるよう充実した交流会として発展・継続させていきたいと思っています。千葉大学の医療系3学部が勢揃いして、ますます密接な交流・協体制が築けるものと確信しております。

最後に、ご支援をいただきましたSDの渋谷圭美氏、

卓球部男子団体連覇

卓球部主将 医学部3年 山中 崇寛

私達卓球部は、八月に行われた、第五回東日本医科学生総合体育大会卓球競技において、男子団体の部で優勝(連覇)することができました。この結果は、試合に出場したレギュラーだけの力だけではなく、他の部員やOBの先生方をはじめ、様々な人の支えのものと結果であり、皆様方には心より感謝申し上げます。OBの先生方の間で、今の代は第四期黄金期と言われるれています。約三十年前の第三期黄金期の際には、六連覇を成し遂げたと聞いています。是非、来年以降も



医学部学務係・石本俊洋氏、小林葉月氏、留学生の皆様へ感謝申し上げます。瀧口正樹医学薬学副府長、分子生体制御学の西山眞理子氏、永井宏子氏、ゐのはな同窓会、薬学部薬友会、看護学部同窓会の皆様のご協力ご支援に厚くお礼申し上げます。

優勝を続け、その六連覇という記録を超えられればと思います。

団体優勝といっても、他の団体スポーツ(サッカーやバスケットボールなど)とは違い、卓球は個人競技と思われがちですが、実際には団体戦において、ベ

ンチの応援は相当の力になります。東医体で連覇したとはいえ、現在私達の部活には絶対的エースはいません。個人戦シングルス最高成績はベスト三十二です。その中でも優勝できたのは、

チームが一丸となり、団結していたからであったと思います。一昨年、個人戦はもっとよい成績でしたが、団体戦三位で終わったことを考えても、今年はいり

層チームがまとまっていたのだと考えています。部活全体を見れば、今、部員は高校以前の経験者よりも、大学から卓球を始めた部員の方が多くなっています。今年度の東医体の女子団体の結果は、ベスト8

でしたが、医学部の女子部員が全員大学で卓球を始めました。そのことを考え、また男子の底上げということを考えても、来年以降に向けレギュラーだけではなく、部全体としてレベルアップを図りたいと思います。

また、今年より薬学部が加わったため、現在医看薬の三学部で活動しており、部活動がより活発になっていきます。今後は、三学部すべてが出場できる東日本医歯

ヨット部優勝

ヨット部主将

医学部3年 栗原 混平

8月1日から8月5日までの5日間(本戦は3日から5日までの3日間)、江戸島ヨットハーバーにおいて開催された第55回東日本医科学学生総合体育大会(東医体)ヨット競技の結果を報告申し上げます。我々千葉大学医学部ヨット部は今回の東医体の主管校であること、長年優勝から遠ざかっていたことから例年以上の強い決意をもってレースに臨んだ結果、団体優勝と個人優勝(鈴木・荒木ペア)を果たすことができました。10年ぶりの団体優勝という最高の結果をお伝えすることができ部員一同大変喜ばしく思っております。

東医体の本戦は3日間とも5〜6m前後の風が吹いており終始千葉大の得意な気候でレースに臨みましたが、初日の結果はあまり振るわず1日目を終えて4位と追い上げる立場となってしまうしました。しかし1位

とは僅差だったこともありこれを機にチームはさらに一致団結し、2日目に首位に立ちそのまま順位を守り切ることができました。私もレースメンバーとして競技に参加しました。観覧艇からの声援を受け部員の結束を実感したことがつい昨日のことのように思い出されます。

決してあきらめることなく最終日までつれる混戦を制することができたのは、お忙しい中にも関

わらずヨットハーバーへと足を運んでくださった多くのOB・OGの先生方のご声援によるものです。また今年には主管ということでヨット部部長の清水栄司先生、前部長の徳久剛史先生、千葉大学全学ヨット部の齋藤総監督をはじめとする数多くの関係者の力をお借りしました。この場を借りて部員一同心より御礼申し上げます。

また、優勝した後はOB・OGの先生方やお世話になります。



第55回 東日本医科学学生総合体育大会 夏期競技結果

	優勝	準優勝	第3位	千葉大学医学部順位
陸上(男子)	新潟大学	東京大	山形大	
硬式野球	聖マリアンナ医科大学	千葉大	日本医大	準優勝
硬式テニス(男子)	山梨大	北海道大	慶應義塾	4位
硬式テニス(女子)	福島県立医科大学	山形大	筑波大	2回戦敗退
ソフトテニス(男子)	札幌医科大学	弘前大	旭川医大	準決勝トーナメント敗退
ソフトテニス(女子)	山梨大学	秋田大	群馬大	予選リーグ敗退
卓球(男子)	千葉大学	山形大	群馬大	優勝
卓球(女子)	東京女子医科大学	順天堂大	筑波大	ベスト8
バレーボール(男子)	杏林大学	自治医大	慈恵医大	ベスト16
バドミントン(男子)	旭川医科大学	弘前大	自治医大	第5位
バドミントン(女子)	昭和大学	日本医大	弘前大	2回戦敗退
サッカー	筑波大学	群馬大	順天堂大	ベスト16
バスケットボール(男子)	新潟大学	東海大	東邦大	2回戦敗退
バスケットボール(女子)	聖マリアンナ医科大学	東女医大	群馬大	ベスト16
剣道	旭川医科大学	慶應義塾	群馬大	ベスト16
空手	山梨大学	防衛医大	新潟大	1回戦敗退
弓道	東北大学	札幌医大	慈恵医大	第16位
水泳(男子)	慶應義塾大学	東北大	防衛医大	総合10位
水泳(女子)	東京女子医科大学	筑波大	山形大	
ヨット	千葉大学	筑波大	横浜市立	優勝
ゴルフ(男子)	慶應義塾大学	埼玉医科大	杏林大	第23位
ゴルフ(女子)	東邦大学	筑波大	東京医歯大	第13位
ラグビー	弘前大学	自治医大	聖マリ医大	ベスト8
第55回 東日本医科学学生総合体育大会 夏期競技結果総合ポイント				
第1位	第2位	第3位	千葉大学医学部順位	
慶応義塾大学	筑波大学	弘前大学	13位/36校	

個人成績

卓球(男子) ダブルス…ベスト4: 小野亮平・藤田教寛
 水泳(男子) 50m自由形 第3位: 横山大騎 100m平泳ぎ 第3位: 横山大騎 800m自由形 第5位: 宮崎文平
 水泳(女子) 100m平泳ぎ 第3位: 齋藤瑞恵 200m平泳ぎ 第3位: 齋藤瑞恵
 ヨット 第1位: 鈴木雄太郎/荒木 岳

になった関係者の方々から数多くのお祝いのメッセージとともに来年の優勝を期待する激励のお言葉もいただき、身が引き締まる思いでいっぱいです。成績ももちろんですが、これからの1年は普段の行動でも他校写真最前列右から加藤史隼(5年)、坂崎仁美

(3年)、涌井凜子(3年)、古谷慶太(3年)、荒木岳(3年)、栗原混平(3年)、山本寛人(5年)、鈴木雄太郎(5年)、石井公祥(5年)

★ ★ 亥 鼻 祭

2012年度亥鼻祭実行委員長

医学部4年 福岡 裕晃

今年度の亥鼻祭（11月3日、4日開催）についてご報告させていただきます。

今年の亥鼻祭は復活してから10周年という節目の催しでした。10周年を迎えられましたこと、ご寄附などさまざまな形でご支援いただきましたみなさまに、心より感謝申し上げます。

今年度は、千葉大学医学部附属病院総合診療部部長の生坂政臣先生に講演会を行っていただきました。講演の第一部では、一般の来場者向けに、問診について医師が患者さんの話をどのように考えているかを、第二部では、NHK情報バラエティ「総合診療医.DIG」を再現し、先生からの症例の課題を、学生がさまざまな鑑別を考えながら、最終診断を導きました。

また、薬学部が亥鼻キャンパスに移行するのに合わせて、西千葉の東洋医学研究会が亥鼻祭の方へ移動してきて、亥鼻キャンパスで展示を行いました。さらに、薬学部の研究室が主体となり「怖い！薬は正しく使お

う」薬学部学生イベント」という企画も催され、より三学部による大学祭として幅が広がりました。

昨年度に引き続き、東日本大震災復興に関する企画も開催いたしました。昨年度は東日本大震災復興講演会と題して、千葉の社会福祉協議会の方に震災ボランティアの必要性について話していただきましたが、今年度は、展示形式で震災ボランティアの方などに知っていただきました。また、大学のボランティアセンターのご協力を得て、大学が主催する震災ボランティアツアーの活動についても紹介いたしました。

今年度は新たに、医療系の大学祭として、災害医療という面からも震災を捉える企画を立ち上げました。内容といたしましては、トリアージやクラッシュ症候群といった急性期の問題から、慢性期の避難所の問題やメンタルヘルスなどさまざまな視点から震災における医療の役割について紹介した

しました。
今年は晴天に恵まれ、3000人の来場者がありました。これからも大学祭としての意義をしっかりと考

え、よりよい大学祭となるよう考えております。
来年も、みなさまのお越しを心よりお待ちしております。



柔道部OB 教授就任

坂田 早苗（昭34）

最近の医学部柔道部に快挙がありました。それは昭54卒の近藤福雄先生が帝京大学医学部病理学教授に就任し、昭57卒の龍野一郎先

生が東邦大学佐倉病院糖尿病・内分泌代謝センター教授に就任し、また昭59卒の磯野史郎先生が千葉大学麻酔科教授に就任をしました。

これら3教授の激励と祝賀の会が昭49卒の田邊政裕教授の音頭で10月8日に京成ホテル・ミラマールにて盛大に開催されました。

昔から教授になるには（運）（鈍）（根）の三拍子を克服してなれると言う超難関を突破して「オメデトウ」とか、今後は教育・研究・医療への一層の活躍を期待しますなど先輩からの祝辞がありました。

昭50年代には東医体・西医体にて優勝し全国制覇をした柔道部なのですが、「汗臭い柔道衣」は嫌いだとの事で最近の医学部柔道部には入部者が少なくなり東日本体育大会でも成績が奮わないので3教授就任の事は大快挙です。

しかし、考えてみると柔道部は前述の3教授の他に、多くの教授を送り出しております。思い出して見ますと、

- 昭36卒 長尾孝一先生 帝京大学病理学教授
- 大川治夫先生 筑波大小児外科教授
- 昭38卒 中田英浩先生
- 昭39卒 山形大学泌尿器科教授
- 深尾 立先生 筑波大外科学教授

鈴木 守先生 群馬大学教授学長・上武大学学長（箱根大学マラソンで有名）

重松秀一先生 信州大学病理学教授

木内政寛先生 千葉大学法医学教授

昭49卒 田邊政裕先生 千葉大学総合医療教育研修センター教授・同センター長（兼任）

昭58卒 丸山 浩先生 自治医科大学教授・成田空港検疫所長

変わったところでは、昭43卒 唐沢祥人先生 日本医師会会長

など思わぬ分野で柔道の粘りを発揮して活躍しております。

写真右から 前列・田沢洋一（昭44）、志



村寿彦(昭44)、深尾立(昭39)、近藤福雄(昭54)、坂田早苗(昭34)、龍野一郎(昭57)、磯野史朗(昭59)、鎗田努(昭41)、田邊政裕(昭49)

二列目・戸ヶ崎賢太郎(学生)、渡邊博幸(平4)、村松俊範(昭61)、鈴木正人(昭62)、花輪孝雄(昭45)、渡辺義二(昭45)、石場俊太

郎(昭45)、佐藤展将(昭48)、高橋敏信(昭52)、水見寿治(昭55)、葛西孝美(平15)

三列目・小川悠介(学生)、大迫鑑顕(学生)、堀部大輔(平11)、大田光俊(平18)、草塩公彦(平3)、伊藤桂(平元)、丸山浩(昭58)、白鳥亨(平3)、小野里優希(学生)、中山大輔(学生)

学 生 教 育
「MEDプログラム」体験記

最高の体験と仲間を得て

医学部2年 山田 奈々

この夏私が参加した、医学留学についてご紹介させていただきます。このプログラムは、VIA (Volunteers in Asia) という団体が主催しているもので、この医学留学だけではなく、語学留学や、アジア各国でのボランティア活動など、非常に多岐にわたる活動を行っています。今回私が参加したMED (Medical Exchange & Discovery) プログラムでは、スタンフォード(以下SF)大学に留学しながら、アメリカの様々な医療施設を回らせていただくものに

なっています。一年生から六年生まで、医学生ならだれでも応募でき、書類選考と面接を経て参加者が選ばれます。

私は小さいころからアメリカの医療に興味がありました。理由は、例えば日本では、定期健康診断が他の先進国ほどには定着しておらず、高齢者のケアや延命治療などについての議論もまだまだ深まっています。こうした状況を少しでも改善したいと考え、他国、特に新しい考え方が生まれ比較的それが採用されやすいアメリカの医療を

学んで、良い部分を日本へ持ち帰りたい、と言う事が今回の私の一番の目標でした。

今回の留学では本当に沢山の医療施設を回らせていただくことが出来ました。病院の科に配属されて実際の診察に同行させていただいたり、医学生が運営しているフリークリニックでは患者さんを問診させていただいたり、このプログラムに参加しなくては生涯経験できなかったであろう体験を沢山させていただきました。また、アメリカにおいてすら貴重な存在であるゲイクリニックなども見学させていただきました。一日のアクティビティが終わると、SF大学の寮に帰って、その日の復習の英語の授業もあり非常にハードでしたが、本当に充実した毎日でした。

そして今回の留学で得た最も大事なものは、

何と言っても同じ志を持った仲間の存在です。毎日寮ですっと一緒に過ごし、この辛い留学を共に乗り越えたため、本当に家族のような存在となっていて、留学が終わった今でもみんなで頻りに会っています。向こうでは毎日の病院見学などだけではもちろんなく、みんなで誕生日パーティーをして、SF大学の卒業式の伝統である、学内の噴水に皆で飛び込む fountain hopping をしたり、これまた学内にあるショッピングモールでみんなで買い物をしたり、ご飯を食べにいったりと、遊びの部分も充実していました。一生大事にしていきたいと思えます。



- 平成24年度大学院
医学薬学府10月入学者
- 〔麻醉学〕 雨宮めぐみ
 - 〔細胞治療内科学〕 川尻千華、長谷川渚、渡辺憲史
 - 〔認知行動生理学〕 佐藤大介、沼田法子
 - 〔神経内科学〕 杉本一男
 - 〔放射線医学〕 原田 堅
 - 〔神経科学〕 吉見典子

公益財団法人猪之鼻奨学会お知らせ
当公益財団への寄附は、税制上の優遇措置の対象となります。

る仲間に出会えたことに本当に感謝しています。

このVIAのプログラムに千葉大学医学部の学生が参加したのは初めてだったので、私はぜひ来年以降も参加者が継続していただけることを本当に望んでいます。医学生にはとてもおすすめの留学です。

この留学に参加して本当によかったと、今、心の底から感じています。今回の留学に参加することを許可し、支えてくださったすべての方にお礼を申し上げ、体験記を終わらせていただきます。本当にありがとうございました。

千葉大学医学部附属病院
病院医療を評価する
「病院機能評価 (Ver.6.0)」
の認定を取得しました。

認定証
Certificate of Accreditation

認定番号 JIC1295-2号
Assessment Number

審査体制区分: 4
(Ver.6.0)
Assessment system division 4

病院名 千葉大学医学部附属病院
Hospital Name Chiba University Hospital

貴病院が日本医療機能評価機構の定める認定基準を達成していることを証する
This is to certify that the above hospital has demonstrated satisfactory compliance with the applicable JCQC accreditation standards.

認定期間: 2012年4月23日 ~ 2017年4月22日
Valid Period: April 23, 2012 ~ April 22, 2017

発行日: 2012年4月15日
Issue Date: April 15, 2012

公益財団法人 日本医療機能評価機構 代表理事 理事長 井原 哲夫
Japan Council for Quality Health Care Chairman of the Board Tetsuo Iihara

課外活動団体だより

軟式庭球部

内務 医学部3年 若林 宗弘

私たち千葉大学医看軟式テニス部(普段呼び慣れている名称で記載させて頂きます)は亥鼻にあるコートを使い、毎週月・木・土曜日に練習しています。2011年にコートの改修が行われクレートコートからオムニコートになりました。経験者と初心者も半々といったところで、現役部員60名の活気のある部活です。私自身も初心者から始め、どうすれば会心の打球を打てるのか日々考えながら練習し、また打てたらその感触が手に残って益々ソフトテニスを好きになる毎日を送っています。千葉大学医看軟式テニス部は医学部生だけでなく看護学部生も在籍する亥鼻では数少ない男女一緒に練習する部活であり、先輩にも後輩にも色々な個性を持った人がいてとても刺激を受けます。そんな人たちが軟式テニスという一つの競技に熱意を注ぐこの部活のことを私は誇りに思います。

千葉大学医看軟式テニス部は2009年にOB会設立50周年を迎えました。毎年の体育の日にOB会を開催しているのですが、その時のOB会は数多くのOBの方がお集まりになりました。例年、昼の部ではOB対現役戦やOB個人戦などが行われ歴代の名プレイヤー達が亥鼻のコートに再び集まり白熱したプレーでコートを湧かせます。今年は自分が内務という役割につきOB会を運営しましたがOBの方々の現役顔負けのプレーを目の当たりにして軟式テニスの奥深さを実感しました。写真は2009年のOB会昼の部の全体集合写真です。



東医体が開催されます。東日本の医学部が参加する規模の大きな大会であり、北日本の大学とも試合をすることが出来る貴重な機会となっています。毎年、医学部6年生は東医体が終わると引退するので一人一人に大きな旗を作り個人戦の時にコートの中の後ろの柵に張り付けてみんなで応援します。幹部の代も東医体を境にエール交換をして交代するのでそういう意味でも大きな大会であると言えます。

最後に、私は軟式テニスという競技を通して本当に多くの友人が出来ました。同じ部活の人のみならず他大の友人も増えました。先輩、後輩ともに飲みに行ったり遊んだりする事も多いです。軟式テニスを大学から始めていなかったら出会えなかった人たちとのつながりを私はこれからも大事にしていきたいと思えます。残りの期間も一生懸命部活に熱意を注いでいきたいと思えます。

平成24年度 医学部課外活動団体

【体育系】

- 硬式野球部
- 女子硬式庭球部
- サッカー部
- 男子バスケットボール
- 山岳部
- 卓球部
- 剣道部
- 軟式庭球部
- 柔道部
- スキー部
- 水泳部
- 陸上競技部
- 弓道部

- 準硬式野球部
- 男子バレーボール部
- 女子バレーボール部
- ラグビー部
- バドミントン部
- 空手道部
- 自動車部
- ヨット部
- ゴルフ部
- 女子バスケットボール
- 男子硬式テニス部
- ダンス部

【文化系】

- 東洋医学研究会
- 軽音楽部
- 世界の医療を考える会
- るの は な 音楽部
- るの は な 手話の会
- ACLS研究会
- 亥鼻バンドサークル
- 獅直会
- 亥鼻医療政策研究会
- 吉田倶楽部
- 【文化系24年度新設】
- 潮汐研究会
- 白鯨社



Working together for a healthier world™
より健康な世界の実現のために

様々な病気に打ち勝つため、ファイザーは世界中で新薬の研究開発に取り組んでいます。画期的な新薬の創出に加え、特許が切れた後も大切に長く使われているエスタブリッシュ医薬品を医療の現場にお届けしています。

ファイザー株式会社 www.pfizer.co.jp

第6回 ちば Basic & Clinical Research Conference

日時：平成25年2月2日（土）14：00～

場所：京成ホテル ミラマーレ 6階 ローズルーム

参加費：医師のみ1,000円【研修医、学生は不要】

『*本研究会は、スカラシッププログラムの講義としても位置づけております。』

14：00～14：10 Opening Remarks

千葉大学大学院医学研究院分子ウイルス学 教授	白澤 浩先生
千葉大学大学院医学研究院整形外科学 教授	高橋 和久先生

14：10～14：30 メーカーセッション

座長：千葉大学大学院医学研究院画像診断・放射線腫瘍部 教授 宇野 隆先生

『multimodalityによる食道癌の進行度診断』
 千葉大学大学院医学研究院先端応用外科学 助教 河野 世章先生

14：30～15：30 学生演題

座長：千葉大学大学院医学研究院分化制御学 助教	坂本 明美先生
東邦大学医療センター佐倉病院整形外科 准教授	中島 新先生

《5 演題》

15：30～15：50 コーヒーブレイク

15：50～16：50 講座紹介

座長：千葉大学大学院医学研究院小児病態学 准教授	下条 直樹先生
『心血管インターベンションの未来』	
千葉大学大学院医学研究院循環器内科学 教授	小林 欣夫先生
『免疫記憶システムの成立と統御治療学』	
千葉大学大学院医学研究院免疫発生学 教授	中山 俊憲先生

16：50～17：50 特別講演

座長：千葉大学大学院医学研究院分化制御学 教授 徳久 剛史先生

『研究がみせてくれたもの』
 千葉大学 学長 齋藤 康先生

17：50～18：00 表彰

千葉大学大学院医学研究院院長 中谷 晴昭先生

18：00～18：10 閉会の辞

千葉大学医学部附属病院院長 宮崎 勝先生

18：10～ 情報交換会

事務局 千葉大学大学院医学研究院整形外科学 大島 精司
 電話 043-226-2117 (内線 5303、5304)
 FAX 043-226-2116
 E-mail sohtori@faculty.chiba-u.jp

世話人 (敬称略)

千葉大学大学院医学研究院院長	中谷 晴昭
千葉大学医学部附属病院院長	宮崎 勝
千葉大学大学院医学研究院小児病態学	教授 河野 陽一
千葉大学大学院医学研究院分化制御学	教授 徳久 剛史
千葉大学医学部医学教育研究室	教授 田邊 政裕
千葉大学大学院医学研究院分子ウイルス学	教授 白澤 浩
千葉大学大学院医学研究院整形外科学	教授 高橋 和久
千葉大学大学院医学研究院分化制御学	坂本 明美
千葉大学大学院医学研究院整形外科学	大島 精司

共催：ちばBasic & Clinical Research Conference/千葉医学会/第一三共株式会社

追悼

故 木村康先生を偲んで

木内政寛(昭39)



木内政寛(昭39)
されました。大学外におい
ても県医師会副会長、県医
療審議会会長をはじめ幾つ
かの要職につかれ県内の医
療の発展にも活躍されまし
た。

本会名誉会員、千葉大学
名誉教授 木村 康先生は
病氣療養中のところ本年七
月八日逝去されました。

先生は大正十三年十月十
八日宮城県に出生されまし
た。あと三ヶ月余で満八八
歳となられるところでした。
旧制山形高校を経て昭和
二四年千葉医科大学を卒業
され、一年インターンの後
医師免許取得、第一外科研
究生、県庁職員を経て昭和
二十七年助手として法医学
講座に入られ、講師、助教
授を歴任、昭和四十六年宮
内教授の後任として教授に
昇任され十九年間に在職の後
の平成二年三月定年退官さ
れました。その間千葉大学
評議員、千葉大学医学部長
も務められ、千葉大学、医
学部発展に尽力されてお
ります。また本同窓会役員
としても本会のために尽く

また法医学は冤罪を出さ
ないための学問であるとい
う信念から弘前事件を始め
とする幾つかの再審請求事
件の鑑定を担当されてお
ります。
大学退官後は新設の船橋
市立看護専門学校校長と
して平成十三年まで学校の
基礎を築き看護教育にも関
わられました。
これらのご功績に対し平
成十三年勲三等旭日中綬章
を受章されております。
先生は助教時代から他
教室から派遣された多くの
大学院生・研究生を指導さ
れました。小生もその一人
でありその後も続けてご指
導を受けることになりました。

お酒を愛され、料理も玄
人はだしの腕の持ち主でし
た、解剖などが終わった夕
方にはお清めと称して反省
会をかねて一杯やることに
多いのですが、あり合わせ
の材料で美味しい肴を作っ
て下さる事がしばしばであ
りました。教室の忘年会は
数グループに分かれ鍋料理
の味を競うというのが例年
のことでありました。また
退官後はご自宅の毎日の夕
食作りは先生の役目という
ことをお聞きしております。
先生は若い頃から常々子
供達がいつでも喜んで集ま
るような家庭をつくりたい
と言われていました。非常
に家族を大事にされていま
嬉しそうに話されていまし
た。

ご多忙の日々を送られた
公職を退かれてからは家族
に暖かく囲まれ歩行が少し
不自由になられるまでは草
木の観察を楽しむ散歩や趣
味の読書などを楽しまれる
静かな余生を送られていま
なる少し前まで嗜まれてい
たようです。
体調を崩され入院された
ことは、他には知らせるな
と家族の方に言われていた
そうです。おしゃれで身だ
しなみに常に気を使われた

先生ですから衰えた姿を見
られるのを嫌われたのだろ
うと思われまます。突然のご
逝去の報を受けて皆驚かさ
れました。
ご遺志に沿ってご遺族は
はじめは家族葬とのご意向
のようでしたが、教室同門

会員や生前親しくお付き合
いがあった方が参列させて
いただき通夜、葬儀がとり
行われました。
永年にわたり賜ったご懇
篤なご指導に感謝しつつご
冥福を心からお祈り申し上
げます。

同窓会員著書の紹介

伊藤晴夫 著

前立腺がん予防法(改訂新版)

緑風出版 定価一、六〇〇円(税抜)

伊藤 晴夫(昭39)



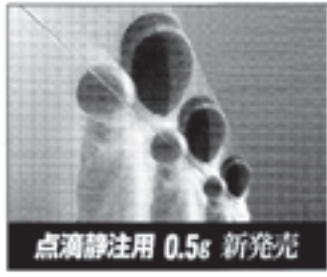
近年、日本でも人口の高
齢化、および食事を主とし
たライフスタイルの変化が
前立腺がんの罹患率および
死亡率を急増させています。
前立腺癌は、双生児研究よ
り、単一遺伝子病を除けば、
遺伝的要因の最も高いがん
ということが判明しました。
それでも遺伝的素因の関与
は42%と云われます。すな
わち、環境要因の方が重要
です。更に、前立腺がんは、
通常一つの細胞ががん化し

てから臨床がんになるまで
の期間が数十年と長く、ま
た臨床がんになってもその
進行が比較的緩やかであ
るといふ特徴を持ちます。
したがって、前立腺がんは、
ライフスタイル、特に食事
の工夫によってその発症を
予防し、さらにその進行を
遅くすることに適ったがん
であると思われまます。
がんの1/3、1/2は
食事因子で予防できるとい
う推測もあります。医食同
源は古くより言われてきた
言葉ですが、これは長い経
験から生まれたものです。
そして今、医食同源は科学
的な裏付けを得て新たな脚
光を浴びるようになりまし

た。食事については、個々
の栄養素・食品も意味を持
ちますが、地中海食や和食
に代表されるような食事パ
ターンがより重要です。伝
統的な和食や地中海食は生
活習慣病の予防に有用だと
いうことが解明されてきま
したが、和食に地中海食の
一部を取り入れれば和食の
価値はさらに高まると考え
ます。

この他、日光浴や運動な
ども重要な因子です。特に、
紫外線照射(日光浴)およ
びビタミンDは、皮膚がん
を別にすれば、殆どのがん
(13種類)の頻度と死亡率を
低下させます。高齢化は避
けられない問題ですが、ラ
イフスタイルを変えること
により前立腺がんはかなり
な程度予防できると思われ
ます。

なお、拙著「前立腺がん
予防法」は出版元のグラフ
社が倒産したため市販不能
となりました。そのため
以前に拙著「生殖医療の何
が問題か」を出版して頂い
た緑風出版から一部を改訂
して本書を出版することに
なりました。



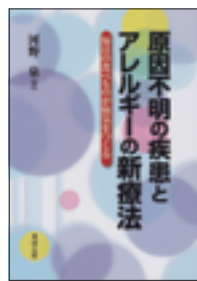
カルバペネム系抗生物質製剤
フィニバックス
FINIBAX
点滴静注用 0.25g・0.5g
キット点滴静注用 0.25g

【効能・効果】、「用法・用量」,
【禁忌】、「原則禁忌」,「使用上
の注意」等については添付文書
等をご参照下さい。
シオノギ製薬
大阪府中央区道徳町3-1-8 号 541-0045
電話 0120-956-734(医薬情報センター)
http://www.shionogi.co.jp/med/

河野 泉 著 原因不明の疾患とアレルギーの新療法

芽ばえ社 定価二、四〇〇円(税抜)

河野 泉(昭42)



1967年に卒業し、インターンと3年間の小児科研修

（国立千葉病院小児科森和夫

医長・ネフロゼ専門）を終えて、病気の原因が分からぬまま診療する心もとなさを感じた。そこで病気の原因に接近できそうな臨床のテーマとしてアレルギーを選び、森先生と当時の久保正次小児科教授のお世話で、国立小児病院アレルギー科（村野順三医長）で一年間、週二日だけであったが、アレルギー診療の現場を経験した。この時に食物アレルギーの文献に出会い、食物が心身全体にわたる広範で多彩な病気・症状の原因になることを知り大きなカルチャーショックを受けた。さらに長年悩まされていた自身の不定愁訴の主な原因が牛乳と鶏卵であったことが判明し、この医学の大きな可能性を直感した。

以来すべての患者さんで発症時の摂取食物の確認と除去食治療（原因食物の除去）を続けてきて、多くの改善・治癒を経験してきた。日常的な病気の多くで食物が原因だったのである。これは臨床上重大な事実と考えるが、この医学は今もほとんど知られていない。その理由の一つは、簡便・正確な原因食物の診断方法がないことだと考えられる。そこですでにバイ・デジタル・オーリングテスト（B D O R T）を採用していた仲間の医師の勧めもあって、10年余り前からこのテストを使ってきて、その大きな有用性を確認してきた。

B D O R T は在米の大村恵昭博士が1970年頃に発明したもので、その著書「バイ・デジタル・オーリングテストの実習」(1986、医道の日本社)を以前に読み、それが驚異的な検査方法であることは知っていた。あらゆる物質について、それが個々の生体にとって適合か不適合か、有益か有害かを、即座に容易に正確に判定でき、食物アレルギー（広くは不適応症）の原因食物の診断も可能である。このテストによって新たに多くのことが分かってきた。例えば米の不適応は非常に多いが、白米、玄米など「五種類」の間で適合する米が頻繁に入れ替わる。水も同様に「六種類」の水の間で適合水が頻繁に入れ替わる。大豆と黒豆の間でも入れ替わる。そして食物はもろもろ水までもが不適合であれば多くの病気の原因になるのである。無床診療所での経験ではあるが、それらの病気には一般のアレルギー性疾患はもちろん、風邪や発熱、不定愁訴症候群、頭痛や肩凝り、易疲労、慢性の倦怠感、過敏性腸症候群や潰瘍性大腸炎、慢性的の下痢や腹痛、関節リウマチ、線維筋痛症、尋常性乾癬、A D H D、パニック障害、うつ病など多くが含まれる。また、有効な薬の選択が即可能であり、薬・食物・ワタチンなどの相乗作用による不適合（副作用）の有無も予知できる。本書にはこの様な40年間の経験と、それに基づく現在のアレルギーの臨床や医学研究のあり方について感じるところを述べている。

なお、1993年にB D O R T に関する米国の特許 [US5188107 (A) -Bi-digital O-ring test for imaging and diagnosis of internal organs of a patient] が大村博士に与えられているという。

寺澤捷年(昭45) 著

吉益東洞の研究—日本漢方創造の思想

岩波書店 定価七、三五〇円(税込) 並木 隆雄(昭60)



和漢診療学講座の前教授であった寺澤捷年先生(昭

45)は、ご退官後もますます盛んで、このたび「吉益東洞の研究—日本漢方創造の思想」を岩波書店から出版された。この本は漢方や医学の歴史が好きな人にもちろんのこと、いかに革新的な「知識の創造」ができ

るかを知る上で大変に参考になる著作である。著者の寺澤先生は御在任中から、ライフワークとして、日本漢方医学のアイデンティティーの探索に力を注がれておられた。今回発刊された本書こそ、その結実であると言える。千葉大学には1939年に設立された「東洋医学研究会」があり、連綿としてその伝統を受け継がれている。寺澤先生は学生時代からこの研究会に属し、40年以上に亘って、研究会のルーツである「古方派」の源流を求め、かつ「古方派」の漢方診療を実践してきた方である。これまでの実績としては学会誌などの論文に加え、寺澤先生の師匠である故・藤平健先生(昭15)が尊敬していた江戸末期の名医・尾台谷堂(おだいようどう)が記した臨床医論書『方伎(ほうぎ)雑誌』の現代語完訳を2007年にまず世に出された。次いで1910年(明治43年)に発刊され漢方が再評価される契機となった和田啓十郎著『医界之鉄椎』の解説に取り組んだ(2010年)。奇しくも和田啓十郎氏の長男・和田正系氏は本学の卒業生(大11)であり、氏は漢方に造詣深く生理学教室に所属しながら、現在にも続く東洋医学

研究会創設の恩人である。さて最近、伝統医学の標準化や国際化を中国・韓国がリードして推進されていることを知っている方もおられると思う。いわゆる「2010」問題である。このような国際状況の中で、改めて我が国の漢方の独自性が問われている。わが国の「漢方」は単なる現代中国伝統医学(中医学)の模倣であろうか。答えは否である。18世紀の中葉に活躍した吉益東洞は儒学者・荻生徂徠の思想に共鳴し、実存的な実証主義を提唱したのである。それは病態のありのままの姿を観察し、これに適切に対処するという、思弁的憶測を排除し、臨床の場で役立つ革命的変革を成し遂げたのである。そして、満を持して筆者がこの本を著した理由は、実は藤平健先生をはじめとする千葉大学東洋医学研究会が東洞直系の学統に連なっているからに他ならないからである。

東洞はどのように日本独自の医学を作ったのか。彼は臨床実践を通して、当時の医学界の常識を覆すような医論を展開した。中国伝統医学で論じられてきた「陰陽」「虚实」「五行」「気血津液」などの基本概念を全

研究創設の恩人である。さて最近、伝統医学の標準化や国際化を中国・韓国がリードして推進されていることを知っている方もおられると思う。いわゆる「2010」問題である。このような国際状況の中で、改めて我が国の漢方の独自性が問われている。わが国の「漢方」は単なる現代中国伝統医学(中医学)の模倣であろうか。答えは否である。18世紀の中葉に活躍した吉益東洞は儒学者・荻生徂徠の思想に共鳴し、実存的な実証主義を提唱したのである。それは病態のありのままの姿を観察し、これに適切に対処するという、思弁的憶測を排除し、臨床の場で役立つ革命的変革を成し遂げたのである。そして、満を持して筆者がこの本を著した理由は、実は藤平健先生をはじめとする千葉大学東洋医学研究会が東洞直系の学統に連なっているからに他ならないからである。



旭化成ファーマ

リコモジュリン®点滴静注用12800

Recomodulin Inj. 12800

■「効能・効果」 「効能・効果」に添付する使用上の注意、「用法・用量」 「用法・用量」に関連する使用上の注意、「禁忌を含む使用上の注意」等については添付文書をご参照ください。

旭化成ファーマ株式会社

URL: <http://www.aichihasei-pharma.com>

2011.06

て否定し、目に見えるもの・効果が確認できた薬や生薬に限定して医論を展開した。これを「親試実験」と言う。実に合理的な思想の持ち主であった。彼の偉業は漢方界に止まらない。思想の呪縛を取り払ったが故に、華岡青洲の如き門人(孫弟子)を誕生させたのである。何故彼が一代でその時代の常識を覆すようなブレイクスルーを起したのか、それを詳細に解明したのがこの『吉益東洞の研究』である。本書は如何に発想の転換を成し遂げるかその「知的創造」の経緯を理解する大きなヒントを解き明かしている。筆者が選定した表紙の吉益像に彼の意思強執さの



糖質革命

櫻本薫(昭61) 櫻本美輪子(平2) 著

宝島社 定価一、三二四円(税抜)

櫻本 薫(昭61)

「機能性低血糖症」は、別名「偉大なるもの真似師」とも言われ、様々な疾患(精神疾患、アレルギー疾患、

片鱗が伺えると思う。そのほか詳しい内容は読んでお楽しみであるとするが、臨床を実践する者にとって、言葉に言い表せない事実があるということ「暗黙知」と「形式知(科学知)」という対立した言葉で平易に説明している。私はこのような概念を知るだけでも本書を読む価値があるのでとは思う。

最後に筆者からお聞きしたところ、「千葉大学附属図書館亥鼻分館」に整理・保管され目録が整備されている古書コレクションから、本書の執筆にあたり多大な恩恵を得たことを付け加えておく。

剩摂取の背後に隠れている共通した傾向は、たんばく質・脂質(の3系・ミネラル・ビタミンを中心とする広範囲にわたる栄養欠損の存在です。人は800万年前に類人猿から分かれ、1万年前に農耕を始めるまで、79万年前の間、狩猟採集漁撈を行うことで自然と「糖質制限」を行っていました。当然我々の身体はこのような飢餓と紙一重という厳しい環境に対して順応しながら現在の状態に進化してきました。しかし近年、大量の精製炭水化物の摂取がはじまり、そこにさらに慢性的な運動不足という問題も加わり、代謝上の重大な問題が現れ始めました。その最初に形成される病態は実は「糖尿病」ではなく、「糖尿病の前段階である「機能性低血糖症」という病態です。

慢性的な運動不足の上に、精製糖質の過剰摂取が頻繁に行われると、食後に血糖値の急上昇が起り始めます。これに対して脾臓は過剰なインスリンの追加分泌を起こして食後血糖値の急降下が起こり、低血糖が引き起こされます。低血糖時にはグルカゴン、副腎皮質ホルモン、アドレナリンなどの血糖上昇ホルモンなどが分泌されますが、急激な降下に対しては、これら血糖上昇ホルモンは過剰分泌されて今度は血糖値の急上昇が起こります。さらにこの血糖値の上昇がまた再びインスリンの追加分泌を引き起こし、と血糖値のジェットコースター状態となります。毎回の食事によって起こされるこのような交感神経系と副交感神経の短時間間にかかる過剰反応は、時間の経過とともに生体に様々な内分泌および自律神経系の異常をおこし、糖尿病ばかりでなく、精神疾患、アレルギー、メタボ、悪性腫瘍などの原因となります。

機能性低血糖症は、しばしばインスリンの過剰投与の際の「医原性低血糖症」と混同され、我々医療関係者でさえも、機能性低血糖症の低血糖時には、「ブドウ糖を取りなさい」といった間違った指導が行われています。機能性低血糖症に対する根本治療は、食事療法(糖質制限)と運動療法となります。

本書は、「機能性低血糖症」という病態と、その予防する食生活(糖質制限)や運動について一般者向けに書かれたものですが、医療関係者の方々にも十分読み応えのあるものと思えます。同時に、これまで常識

とされた様々な栄養素や健康食についての誤解を、医学的な根拠を明確にして解説しました。また当院での健康データや著者自らが行った実験データなども掲載いたしました。

糖質制限食の理論は、あらゆる慢性疾患の予防食、健康食として非常に意義のある食事方法です。医療に携わる方々にも是非知って欲しいと切に願っています。

るのな同窓会賞受賞候補者募集要項

第十八回(二〇一三年度) ゐのな同窓会賞の受賞候補者を左記により募集いたします。

一、受賞対象者

① 社会貢献賞

本会員で、医療活動の顕著な業績により、社会に高い貢献をした個人またはグループ。

② 功労賞

医学および広く文化の各領域において、千葉大学および千葉大学ゐのな同窓会に多大の貢献をした者。

二、表彰

① 社会貢献賞 (三件以内)

盾および賞金(総額三十万円以内)を贈呈します。

② 功労賞 (二件以内)

盾および賞金十万円を贈呈します。

三、応募方法

所定の申請用紙により、二〇一二年十二月一日から二〇一三年一月三十一日までに申請して下さい。

四、受賞者の決定

選考委員、常任理事会の議を経て、会長が行います。

審査結果は二〇一三年五月中旬までに各申請者に通知すると共に、ゐのな同窓会報に掲載します。

五、問い合わせおよび申請用紙請求先

千葉大学医学部内、ゐのな同窓会事務室

申請用紙は同窓会ホームページよりダウンロードすることが出来ます。

神奈川あのはな会

平成24年7月 第23号



あのはなかながわ (平成24年7月号) 1

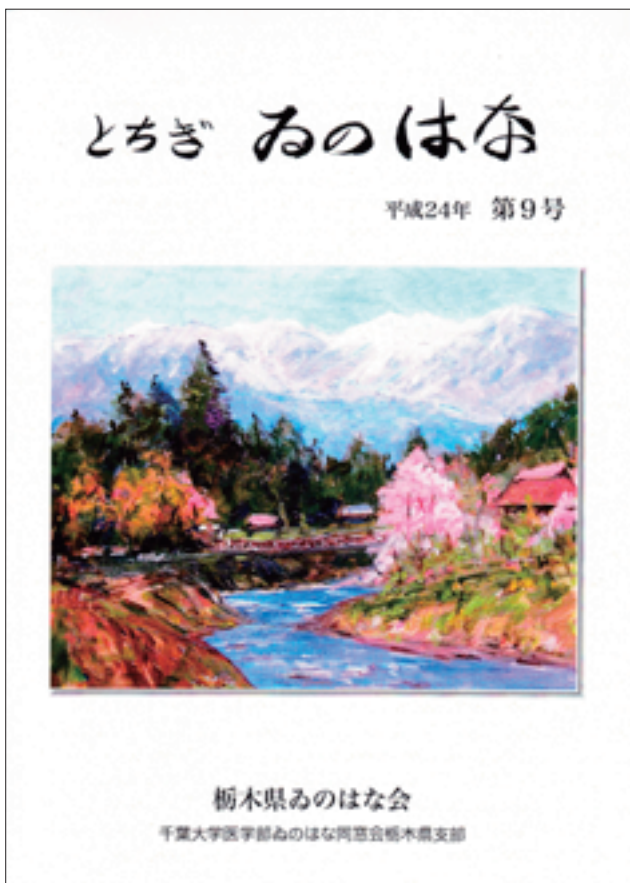
あのはなかながわ 第23号 目次

巻頭言	行宮浩太	青木太三郎	2
総会	平成23年度総会開催報告	三村孝夫	3
	活動報告・決算報告予算案		4
	総会風景		5
	集合写真		6
編りめぐり	世帯会全沢病院グループ	高山篤佳	7
地区だまり	川崎あのはな会—北部地区から	渡辺美都	10
卒業生記	予防医科学会	高千穂保	12
	思い出すことなど	小野寺亮輝	14
	雑感	新井健二	15
	「あーっ」生活21年	堀崎正彦	17
	春に思うこと	飯沼光博	18
	20年ぶりに総会開催に参画となりました	浮世英生	20
新報掲載		朝倉英文	21
編集後記			23

発行：戸部昭雄、渡辺美都、新井健二

栃木県あのはな会

平成24年 第9号



とちぎあのはな会 第9号

..... 目次

巻頭言	行宮浩太	朝田 幸彦 (03349)	1
総 会	平成24年度 栃木県あのはな会 総会プログラム		2
	会務報告		3
	平成23年 会務報告		4
	総会アルバム		5
全国あのはな会長 ご挨拶		伊藤 雅夫 氏 (03394)	8
特別講演「子宮頸がん、11PV—がん検診とワクチン」		渡部 一雄 氏 (03391)	9
あのはな会より	東京あのはな会 会長 ご挨拶	津路 高樹 (03340)	10
	茨城あのはな会 会長 ご挨拶	高上 英 (03340)	11
	群馬あのはな会 会長 ご挨拶	鈴木 亨 (03340)	11
関係病院より	上野病院	上野 謙三 (03340)	12
	宇都宮記念病院	嶋尾 泰博 (03440)	13
	宇都宮総合病院	堀田 武幸 (03420)	14
	獨協医科大学病院	山内 友高 (03370)	15
	宇都宮病院	竹野 幸一 (03340)	16
	とちぎ本院	早乙女 英 (03340)	17
	済生会宇都宮病院	戸部 昭雄 (03340)	18
あのはな会より	吉澤誠	本庄 三郎 (03340)	19
	加 藤	朝田 武雄 (03340)	20
	若 葉	山内 泰高 (03340)	21
とちぎより	全国あのはな同窓会 平成23年度活動報告	大津 利夫 (03340)	22
	東北大学医歯学連携 六内堂	森崎 英 (03340)	25
	同窓会	朝田 幸彦 (03340)	26
	教授陣のご挨拶	安西 高彦 (03340)	27
	公衆衛生大会、認知学表彰を授賞して	西川 勉介 (03340)	28
	最近始めたこと	小嶋 正樹 (03340)	29
あのはな会より	あのはな会		30
あのはな会			31
あのはな会			32

発行：高橋孝典、渡辺美都、朝田 幸彦

オンライン会報案内

<http://www.inohana.jp/online/index.html>

みのはな 千葉大学医学部 みのはな同窓会



本会は千葉大学医学部の発展に貢献するとともに、会員相互の親睦を図り、医道の昂揚に努めることを目的としています。

インターネット上のオンライン会報は、動画配信を主とする情報サイトです。お蔭様で、動画にご出演いただく先生の数が増大し、本会報へのアクセス数も増加してきております。みのはな同窓会会員である多くの先生方のご参画をお願いする次第です。

さて、今後の予定も含めてのお話となりますが、現在、医学・医療に関わる他のサイトとのリンク貼りを努力中です。一般市民が構築してある日本医学図書館協会のホームページとのリンクが、その一例です。一方、若い先生方の研究活動の一助になればと、各種の研究助成情報を掲載いたします。とうきゅう環境財団、濱口生化学助成財団、公益財団猪之鼻奨学会、等々です。

なお、千葉日报社と連携して、オンライン会報で紹介している先生方を千葉日報新聞へも掲載することとしました。本お知らせ版で例示してある記事をご参照ください。より多くの会員諸氏による掲載希望のあることを切望する次第です。

掲載をご希望の場合は、みのはな同窓会本部へ、電話、FAX、メールのいずれかでお知らせください。事務局職員が対応いたします。(文責 鈴木信夫 副会長・オンライン会報編集担当)

同窓会員経営の病院・医院・診療所の紹介



神経内科専門クリニック
神経内科 津田沼
所長 服部孝道
[2012.8.15 掲載]



さくさべ坂通り診療所の紹介
・在宅ホスピスを牽引する診療所
院長 大岩孝司
[2011.11.14 掲載]



神経内科津田沼での診療風景



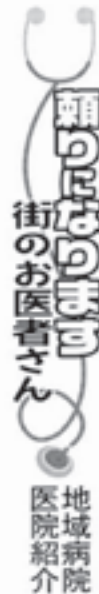
服部孝道所長
「手足に力が入らない」「頭が痛い」「物忘れがひどくなった」などの症状で困っている人は一度、神経内科で診てもらおう。脳や脊髄、末梢神経、筋肉の病気など、対象となる疾患も多種多様。多くの人にとって大変身近な専門領域といえる。しかし、医療現場では神経内科の専門医は少なく、受診できる病院は限られているという。08年に開設された神経内科専門クリニック。服部孝道所長以下実績のある5人の専門医が診療に当たる。診療はすべて予約制。患者一人に30分以上の時間をかけるなど、正確な診断と適切な医療に心を砕く。服部所長は「できるだけ最新の最良の神経内科医療を地域の皆様にお届けしたい」と話している。

◆服部孝道所長プロフィール
千葉大学医学部卒。ロンドン大学神経研究所研究生、米国バツファローで神経学レジデントを経て松戸市立病院神経内科部長、千葉大学医学部神経内科教授を歴任。

神経内科 津田沼

院の数は限られているという。「神経内科 津田沼」は2008年に開設された神経内科専門クリニック。服部孝道所長以下実績のある5人の専門医が診療に当たる。診療はすべて予約制。患者一人に30分以上の時間をかけるなど、正確な診断と適切な医療に心を砕く。

身近な疾患、時間かけ問診



◆診療案内▽診療科 神経内科▽受付時間 9時12時、14時17時 (月・火・水・金・土 曜日)▽休診日 木・日曜日、祝祭日▽住所 船橋市前原西2-1-14 15棟原ビル7階 (JR津田沼駅北口徒歩1分)▽電話 047-470-0500

インタビュー



医療イノベーションは医学部から始まる！！
 矢島鉄也（厚生労働省 健康局長）
 [2012.11.13 掲載]



根のある医師は、大学の臨床で育つ！！
 伊丹 純（独立行政法人国立がん研究センター中央病院放射線治療科 科長）
 [2012.10.22 掲載]

オンライン書庫

【医科学情報】



放射能測定機器類の紹介
 石井正人（千葉大学大学院 医学研究院 RI管理室）
 八王子市市民講座（2012.7.21開催）における講演
 [2012.10.3 掲載]



放射能に関する報道

- 商業誌報道（平成23年4月9日～平成24年2月1日）
- 福島原発事故による放射能汚染に関する商業紙報道の見出し・概要（平成23年）

【商業紙報道】



千葉日報報道から

- 平成24年5月26日～7月14日
- 平成24年5月26日～6月18日
- 平成24年3月10日～5月10日

【環境関連情報】



- とうきゅう環境財団
- とうきゅう環境財団研究助成情報
- 社会貢献学術賞受賞候補者推薦要綱

【諸団体の紹介】



公益財団法人 猪之鼻奨学会
 [2012.11.16 掲載]



一般財団法人 濱口生化学振興財団
 ・助成金応募要項
 [2012.11.16 掲載]

患者定での訪問診療風景



大岩孝司院長



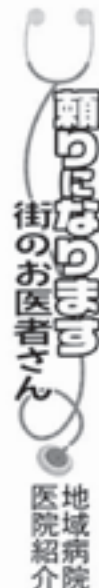
な思いのがん長

「がん」と診断されたが、住み慣れた自分の家で治療を受けたい。「自宅で苦痛のない生活を続けたい」。しかし、「病状が急に悪化したり、病気の進行に伴う痛みが襲ってきたらと考えると不安」。

対象は悪性腫瘍と診断された患者で、独り暮らしや自宅での治療を希望する人など。医師2人、看護師4人、ケアマネジャーらで、日曜・休日を含め24時間体制でサポートする。大岩院長は「どんな状況でも患者さんにとつての良き医療を一緒に考えていく」と話している。

さくさく坂通り診療所

がんのホームドクター



地域病院 医院紹介

◆診療案内▽診療科 緩和ケア内科▽診療時間 外来(予約) 月曜日午後3～5時。在宅緩和ケア診療申し込み受付(電話) 土・日曜・祝日を除く午前9時～午後5時▽住所 千葉市中央区椿森6の8の11(JR千葉東駅徒歩10分)▽☎043(284)5172

◆大岩孝司院長プロフィール 千葉大学医学部卒。国立佐倉病院、結核研究所付属病院、松戸市立東松戸病院などで呼吸器外科医として、主に肺がんの診療に従事。県がん対策審議会委員。

患者の方々には訪問診療により在宅療養を支援するための医療を提供している。通称「がんのホームドクター」。大岩院長は肺外科医として長年活躍。その経験を下敷きに「在宅緩和医療」

(平成24年11月30日現在)

新るのほな同窓会館設立事業募金状況



平成21年の千葉大学医学部創立135周年を機に
 始めました募金につきまして、下記の方々、
 施設、団体等からご協力を頂きました。ご芳名
 は新会館の銘板に刻させて頂きたく存じます。
 なお、日頃よりご厚情をお寄せ頂いております
 医療機関等におかれましても、なお一層のご支
 援を賜れますれば誠に幸甚に存じます。

佐藤 大悟	高橋 健太郎	野村 加奈子	山田 由美
佐藤 孝太郎	高橋 はな	林 康子	山本 里美
佐藤 明日香	田中 美砂子	林 宏樹	山本 太郎
佐藤 健吾	田中 勇気	樋口 一樹	山口 圭太
佐本 健二	田村 和之	古谷 大輔	山口 康平

芳名板デザイン

- 一般個人** (敬称略)
- 片野 鈴枝
 - 加藤 良二
 - 久保田 勤也
 - 稲瀬 道和
 - 進藤 輝山
- 医療機関**
- 国保旭中央病院
 - (医) 井上記念病院
 - (医) かすみクリニク
 - 上都賀総合病院
 - (医) 木下産婦人科医院
 - 埼玉厚生生連 熊谷総合病院
 - (医) 社団よつ葉会介護老人保健施設 さかき光陽
 - (医) 三愛記念病院
 - (医) 三愛記念そが病院

- 寄附者ご芳名** (敬称略)
- 下都賀総合病院
 - (医) 社団明生会東葉クリニック
 - (医) みはま病院
 - 聖隷浜松病院
 - 聖隷佐倉市民病院
 - 聖隷横浜病院
 - (医) 徳風会高根病院
 - (医) 船橋クリニック
 - (医) 三橋病院

- 高額寄附者ご芳名** (敬称略)
- 300万円以上ご寄附
 - 企業・法人等
 - 財団法人 同仁会
 - 100万円以上ご寄附
 - 医療機関**
 - 旭神経内科病院
 - (医) 大平会嶺井第一病院
 - 三川鉄千葉病院
 - 千葉中央メディカルセンター
 - (医) 船橋整形外科病院

- 企業・法人等**
- S M B C 日興証券 (株)
 - 赤星工業 (株)
 - 旭化成ファーマ (株)
 - あすか製薬 (株)
 - アストラゼネカ (株)
 - アルフレックスファーマ (株)
 - 石井食品 (株)
 - (株) 石渡商事
 - 岩瀬薬品 (株)
 - (株) ウチタ和漢薬
 - 栄研化学 (株)

- 企業・法人等**
- (医) 志方記念会三木クリニック
 - アステラス製薬 (株)
 - キッコーマン (株)
 - 小太郎漢方製薬 (株)
 - 第一三共 (株)
 - 武田薬品工業 (株)
 - 田辺三菱製薬 (株)
 - (株) 千葉京成ホテル
 - 中外製薬 (株)
 - (株) ツムラ
 - 鳥居薬品 (株)
 - ファイザー (株)
 - 千葉大学医学部附属病院

- 同窓会員**
- 小埜 清
 - 医学部後援会
 - 臨床医学研究助成会
 - 赤井 壽紀 (昭43)
 - 唐澤 祥人 (昭43)
 - 中村 陽子 (昭44)
 - 大西久仁彦 (昭47)
 - 旭 俊臣 (昭48)
 - 早乙女 勇 (昭48)
 - 秋葉 哲生 (昭50)
 - 福井 博行 (昭56)
 - 土屋 広明 (昭57)
 - 角田 隆文 (昭57)
 - 仲野 公一 (昭63)
 - 岡本 和久 (平2)
 - 土井 茂治 (平3)
 - 伊藤 晴夫 (昭39)
 - 今津 曄 (昭40)
 - 矢野浩二郎 (平11)
 - 小山 虎信 (公衆衛生学)

- 同窓会員**
- エスエス製薬 (株)
 - エーザイ (株)
 - エース損害保険 (株)
 - (株) エスアールエル
 - エルメッドエーザイ
 - 大塚製薬 (株)
 - (株) 大塚製薬工場
 - 小野薬品工業 (株)
 - 科研製薬 (株)
 - 化研生薬 (株)
 - 鹿島建設 (株)
 - 勝又自動車 (株)
 - (株) 北原防災
 - キッセイ薬品工業 (株)
 - 杏林製薬 (株)
 - 興和 (株)
 - 協和醗酵工業 (株)
 - キリンファーマ (株)
 - グラクソ・スミスクライン (株)
 - クラシエ製薬 (株)
 - クラシエ薬品 (株)
 - 京成建設 (株)

- 同窓会員**
- エスエス製薬 (株)
 - エーザイ (株)
 - エース損害保険 (株)
 - (株) エスアールエル
 - エルメッドエーザイ
 - 大塚製薬 (株)
 - (株) 大塚製薬工場
 - 小野薬品工業 (株)
 - 科研製薬 (株)
 - 化研生薬 (株)
 - 鹿島建設 (株)
 - 勝又自動車 (株)
 - (株) 北原防災
 - キッセイ薬品工業 (株)
 - 杏林製薬 (株)
 - 興和 (株)
 - 協和醗酵工業 (株)
 - キリンファーマ (株)
 - グラクソ・スミスクライン (株)
 - クラシエ製薬 (株)
 - クラシエ薬品 (株)
 - 京成建設 (株)

- 同窓会員**
- 土屋 與之 (昭24)
 - 羽生富士夫 (昭29)
 - 谷嶋 俊雄 (昭34)
 - 谷嶋 つね (昭35)
 - 加藤 昌義 (昭36)
 - 岩倉 弘毅 (昭37)
 - 伊藤 晴夫 (昭39)
 - 今津 曄 (昭40)

- 同窓会員**
- ゼリア新薬工業 (株)
 - 大正製薬 (株)
 - 大日本住友製薬 (株)
 - 大鵬薬品工業 (株)
 - (株) ケーヨー
 - 京葉工管 (株)
 - (株) 小山商会 千葉営業所
 - 佐藤製薬 (株)
 - サノフィ・アベンティス (株)
 - (株) ザ・マンハッタン
 - (株) サラト
 - 沢井製薬 (株)
 - 参天製薬 (株)
 - (有) サン・プランニング
 - (株) サンリツ
 - (株) 三和化学研究所
 - (株) 志学書店
 - シェリング・プラウ (株)
 - 塩野義製薬 (株)
 - 白鳥製薬 (株)
 - 菅原工芸硝子 (株)
 - (株) 正文社

- 同窓会員**
- エスエス製薬 (株)
 - エーザイ (株)
 - エース損害保険 (株)
 - (株) エスアールエル
 - エルメッドエーザイ
 - 大塚製薬 (株)
 - (株) 大塚製薬工場
 - 小野薬品工業 (株)
 - 科研製薬 (株)
 - 化研生薬 (株)
 - 鹿島建設 (株)
 - 勝又自動車 (株)
 - (株) 北原防災
 - キッセイ薬品工業 (株)
 - 杏林製薬 (株)
 - 興和 (株)
 - 協和醗酵工業 (株)
 - キリンファーマ (株)
 - グラクソ・スミスクライン (株)
 - クラシエ製薬 (株)
 - クラシエ薬品 (株)
 - 京成建設 (株)

- 同窓会員**
- 赤井 壽紀 (昭43)
 - 唐澤 祥人 (昭43)
 - 中村 陽子 (昭44)
 - 大西久仁彦 (昭47)
 - 旭 俊臣 (昭48)
 - 早乙女 勇 (昭48)
 - 秋葉 哲生 (昭50)
 - 福井 博行 (昭56)
 - 土屋 広明 (昭57)
 - 角田 隆文 (昭57)
 - 仲野 公一 (昭63)
 - 岡本 和久 (平2)
 - 土井 茂治 (平3)
 - 伊藤 晴夫 (昭39)
 - 今津 曄 (昭40)
 - 矢野浩二郎 (平11)
 - 小山 虎信 (公衆衛生学)

ホテルグリーンタワー幕張 (株) ほてい家	ホテルニューオータニ幕張 マイラン製菓(株) 丸石製菓(株) マルホ(株) 丸万壽司 三井ガーデンホテル千葉 三井住友海上火災保険(株) (株) ミノファアゲン製菓 明治製菓(株) 持田製菓(株) (株) ヤクルト ヤマサ醤油(株) 山崎製パン(株) (株) ヤンセンファーマ ロート製菓(株) ワイズ(株) わかもと製菓(株)	黒川 道徳 後藤 喜章 小西 敏郎 櫻井 茂 佐藤 恒明 鈴木 壽郎 杉浦 英一 高浦 和彦 高橋 恒雄 田島 啓二 塚田 俊行 富永 庸平 豊田 浩史 中川 康 中田 徹亮 東ヶ崎邦夫 平山 敏雄 廣瀬 俊夫 藤田 邦臣 前田 雅治 松田 一男 三田 信明 森 豊 山本 幸一 吉井 仁実 吉澤 尚嗣 若松 英彦 和田 正英	小曾根卓朗 小関 洋男 酒井 雄一 佐藤 千鶴 下平 坦 須賀 秀晃 泉水 卓 高橋 修 竹本 勝巳 田中 清七 坪井 良真 豊田 弘 永井 玉枝 中川 洋一 名倉謙二郎 日野修一郎 広沢 邦浩 藤井 康史 堀井 宏志 松岡 才二 武藤大二郎 山田 雄一 与儀 実久 吉岡 雅之 与芝 真彰 脇田 正実	川内 大輔 室山 優子	免疫発生学 細川 裕之 山下 政克 救急集中治療医学 仲村 将高 放射線医学 川田 哲也 細胞分子医学 宮城 聡 臨床分子生物学 武川 寛樹 総合診療部 大平 善之 先端と漢診療学寄附講座 関矢 信康 久永 明人 循環型地域医療連携システム学 馬杉 綾子 計良 和範 病理部 谷澤 徹 千葉大医・旧助手会 事務部 清水 富雄 堀江 寛	昭18 梶山 豊 竹蓋 一郎 田中 進 佐藤 進一 川辺 敏 山崎 康弘 来仙 隆 山田 悦朗 井出源四郎 清水 衛 井出源四郎 北澤 幸夫 野際 英雄 香取 郁雄 三瓶 善康 竹内 盈 中山 重男 宮入 繁夫 昭24 石谷 治彦 君島善次郎 國府田幸夫 佐々木宣明 鈴木 直基 田中 光 寺島東洋三 中村 和之 菱木 達明 武藤 滋 昭24 伊佐 博夫 石井 貞一 植草富二郎 大橋 平治 奥野 文雄 河野 正賢 下坂正次郎 土田 功一 中村 彰 中村 精男 久安 徹 南安 幹夫 山口 寅三 弘藤 恒好	昭18 佐藤 進一 田中 進 山崎 康弘 来仙 隆 山田 悦朗 井出源四郎 北澤 幸夫 野際 英雄 香取 郁雄 三瓶 善康 竹内 盈 中山 重男 宮入 繁夫 昭24 石谷 治彦 君島善次郎 國府田幸夫 佐々木宣明 鈴木 直基 田中 光 寺島東洋三 中村 和之 菱木 達明 武藤 滋 昭24 伊佐 博夫 石井 貞一 植草富二郎 大橋 平治 奥野 文雄 河野 正賢 下坂正次郎 土田 功一 中村 彰 中村 精男 久安 徹 南安 幹夫 山口 寅三 弘藤 恒好	昭25 池田佐嘉衛 越後貫 誠 葛田 瑞世 相磯 敬明 石毛 義治 円城寺 栄 島田 光重 下野 武 竹之内 弘 中田 秀明 長嶋 晟 畑 徹 宮内謙二郎 山崎 義人 渡辺 武夫 昭26 阿部 定生 伊藤 進 久我 哲郎 武井 稔 西宮 脩 柳澤 文憲 吉田 敏郎 昭26 大沢 弘和 津村 澄雄 平川 達 阿部 忠夫 有馬 忠正 大濱 博利 小沢 昭司 櫻井 昭司 住吉 孝男 高見澤裕吉 原 恒男	昭25 奈良 四郎 平岡 眞 前田 裕 和田 寛 和野 信次 大野 米夫 柿栖 俊一 斎川 東洋 橋本 眞 水沼 三郎 渡辺 兼司 中野 正義 奈良林 定 船曳 甫 森川 二郎 横山 宏 石井 邦夫 大倉 淳男 四家正一郎 土手内守人 細田 裕 大和 謙 渡部 士郎 小関 芳昌 内藤 和穂 有田 文章 井上 幸万 小川源太郎 河目 堯介 黄田 照光 莊司 榮徳 橋爪 壮 関口 和夫
--------------------------	--	--	--	----------------	---	---	---	---	---

医学部後援会

医学部教職員等

同窓会員

秋元 駿一	昭30 浅見 敦	福島 通夫	根本 幸一	中塚 正夫	島崎 淳	佐野 迪雄	鹿山 徳男	大藤 正雄	荒木 晃	昭29 有馬 道雄	吉田 恭二	山田 達哉	森山 典男	本位田 泰介	長谷川 正博	戸賀崎 義治	武市 亨	鈴木 正巳	清水 惟義	澤田 勤也	小澁 雅亮	窪田 靖夫	唐木 清一	加藤 一雄	小田 博之	上野 正和	阿部田 辰一	青木 太三郎	昭28 秋山 龍男	壬生倉 勝	石橋 源三	専27 渡辺 勲	本間 康正	鍋谷 欣市	中野 清幸	武宮 三三									
浅見 敦	芳賀 士郎	野口 隆一	夏目 清	戸川 練一	竹内 清海	高橋 幸洋	斎藤 忠夫	大原 一夫	有馬 道雄	昭32 飯塚 正章	山口 慶三	船橋 輝藏	山下 泰徳	松本 龍二	平田 正雄	成田 光陽	寺嶋 克郎	平林 健六	鈴木 正剛	柴崎 晃	吉原 一郎	森田 茂	南園 義一	松田 三樹雄	藤山 嘉信	永野 俊雄	中島 和彦	十束 支朗	高橋 宣光	志村 昭光	指田 和明	後藤 澄夫	小林 茂	貴家 昭而	大坪 雄三	伊藤 敏夫	石神 一良	浅利 行男							
福田 達幸	林 昌三	野本 忠雄	西村 久一	中村 常太郎	谷川 英世	高橋 恒雄	仙波 幸洋	三枝 一雄	大久保 惠司	飯塚 正章	山野 元	森 碧	西原 源太郎	杉山 伸子	桑原 久	加藤 繁夫	海老原 雄一	上原 すす子	小野 清四郎	小野 清四郎	渡邊 英詩	横田 俊二	村瀬 靖	丸川 和太	古屋 大雄	野本 和男	中野 政雄	富田 裕	滝口 光雄	高橋 良平	清水 康	齊藤 正道	小林 富久	片山 健次	岩井 忠志	伊谷 昭幸	新井 多喜男								
横山 宏	田口 勝	矢野 昌宏	藤田 久彌	原 雅美	野尻 雅美	津金 澤督雄	高木 良章	清水 順三郎	坂田 早苗	倉持 正昭	遠藤 幸男	植田 伸夫	赤星 至朗	昭34 山崎 亮	吉田 貞利	檜垣 有徳	林 國春	長崎 陽護	辻 陽雄	高木 學治	清水 文七	石川 美智子	佐藤 俊一	近藤 洋一郎	小林 延年	加藤 直幸	小高 達也	岡本 達也	宇野 一眞	磯野 可一	石川 恭子	相原 茲明	昭33 和野 康敬	横尾 敦夫	牧野 耕治	藤田 真									
吉井 哲夫	横山 成元	山本 光保	矢崎 光保	原沢 三男	野口 徹男	関 泰男	多田 富雄	清水 精子	塩川 喜之	齋藤 篤	春日 建邦	植村 研一	石川 亮夫	御子 柴幸男	谷川 章子	新美 仁男	土井 偉誉	武田 從信	増田 善昭	高木 陽雄	松山 迪也	堀江 武	真島 吉也	三橋 稔	村松 準	横山 孝一	浅野 尚	昭38 塚田 正男	高根 健	鈴木 博一	白井 鎮夫	清水 完次朗	崎山 裕康	小内 政寛	木内 康行	伯野 中彦	中村 嘉孝	杉岡 昌明	斎藤 全彦	黒岩 璋光	小野 幸雄	安達 惠美子	伊藤 文雄	石山 淳一	昭37 渡部 浩二
守山 洋一	前嶋 清	藤塚 立夫	野本 一夫	中田 義隆	塚原 重雄	谷合 幸雄	関 幸雄	鈴木 伸典	青木 昭謹	今野 昭義	吉永 雅俊	栗原 敬二	北原 孝子	川村 孝子	小野 沢君夫	岡田 信道	新井 一夫	昭36 山崎 英雄	増田 善昭	松山 迪也	堀江 武	藤村 眞示	西川 侃介	永田 一郎	千野 宗之進	嶋田 裕	佐藤 甫夫	眞永 嘉久	阪 信	草刈 隆	神田 敬	軽部 富美夫	岡田 光生	市村 公道	雨宮 浩	昭35 石川 喙									
嶺井 進	三井 静	松井 宣夫	平形 惠美	林 直諒	成瀬 泰正	中田 忠雄	寺嶋 剛	楯 市郎	谷 修一	高野 裕俊	佐藤 和子	畔田 浩	栗原 伸夫	北村 温	大和田 英美	大木 勲	穴沢 輝一	浅野 尚	昭38 塚田 正男	高根 健	鈴木 博一	白井 鎮夫	清水 完次朗	崎山 裕康	小内 政寛	木内 康行	伯野 中彦	中村 嘉孝	杉岡 昌明	斎藤 全彦	黒岩 璋光	小野 幸雄	安達 惠美子	伊藤 文雄	石山 淳一	昭37 渡部 浩二									
宮治 誠	緑川 亮	三木 重義	藤本 直諒	野本 泰正	長山 忠雄	鳥羽 市郎	寺嶋 剛	楯 市郎	谷 修一	高野 裕俊	佐藤 和子	畔田 浩	栗原 伸夫	北村 温	大和田 英美	大木 勲	穴沢 輝一	浅野 尚	昭38 塚田 正男	高根 健	鈴木 博一	白井 鎮夫	清水 完次朗	崎山 裕康	小内 政寛	木内 康行	伯野 中彦	中村 嘉孝	杉岡 昌明	斎藤 全彦	黒岩 璋光	小野 幸雄	安達 惠美子	伊藤 文雄	石山 淳一	昭37 渡部 浩二									
田中 則好	瀧澤 弘隆	黒田 紀子	妹尾 素淵	関谷 宗英	税所 宏光	冠木 徹彦	大本 恭平	海老沼 光治	青木 至	昭40 遠山 敬介	山本 弘	山下 明美	矢島 義忠	村上 信乃	万本 盛三	平形 昭代	那須野 光政	塚田 正男	高根 健	鈴木 博一	白井 鎮夫	清水 完次朗	崎山 裕康	小内 政寛	木内 康行	伯野 中彦	中村 嘉孝	杉岡 昌明	斎藤 全彦	黒岩 璋光	小野 幸雄	安達 惠美子	伊藤 文雄	石山 淳一	昭37 渡部 浩二										
角田 興一	竹内 龍雄	高野 元昭	曾野 文豊	島 京碩	辛 莊明	小島 弘佑	大木 健資	漆原 昌人	天海 照夫	昭42 安江 良方	御園生 正紀	市川 清子	中島 嘉一	塚本 嘉一	竹島 徹	高山 和夫	鈴木 龍興	白濱 龍興	塩沢 博	佐々木 徳秀	高沢 博	鈴木 守	清水 秀一	重松 秀一	坂田 晃康	今野 貞夫	古謝 景春	角張 雄二	小野 健次郎	大森 忠昭	大河原 邦夫	上原 千津子	田井 津子	奥山 隆保	伊藤 幸三郎	入枝 幸三郎	伊東 治武	吉野 明昭							
高部 吉庸	谷口 克	更科 廣實	勝俣 剛志	関 隆郎	伊藤 達雄	関 三千代	昭42 渡辺 寛	安江 良方	御園生 正紀	市川 清子	中島 嘉一	塚本 嘉一	竹島 徹	高山 和夫	鈴木 龍興	白濱 龍興	塩沢 博	佐々木 徳秀	高沢 博	鈴木 守	清水 秀一	重松 秀一	坂田 晃康	今野 貞夫	古謝 景春	角張 雄二	小野 健次郎	大森 忠昭	大河原 邦夫	上原 千津子	田井 津子	奥山 隆保	伊藤 幸三郎	入枝 幸三郎	伊東 治武	吉野 明昭									
田中 弘一	高崎 健	鈴木 敦子	冠木 透	片倉 直躬	石井 従道	渡辺 一男	鎗田 努	溝口 勝	福田 康一郎	半澤 信	中村 宣生	飯田 龍一	田中 文隆	竹内 豊	鈴木 豊	島田 哲男	里村 洋一	三枝 俊夫	小林 英夫	菊池 義公	柏原 英彦	落合 武徳	王子 明	飯島 一彦	新井 茂郎	渡邊 攻	山田 勝巳	柳沢 貫一	武者 廣隆	服部 芳夫	野口 眞利	長尾 龍郎													

和泉佳子	李思元	松清央	堀井文千代	舟橋満寿子	藤塚光慶	中村宏	仲尾清	鳥居雅江	千葉彌幸	田代重彦	高山直秀	鈴木秀	宿谷正毅	佐藤文彦	斎藤弘司	小山哲夫	栗山喬之	川村功	梶尾高根	小澤俊	網代成子	伊藤進	磯村勝美	足立英雄	青木靖雄	昭43	渡辺道典	林益子	守屋秀繁	森田喜崇子	藤田優	平賀一陽	比嘉英磨	服部孝道	鍋島和夫	中島克巳	内藤準哉														
横堀直孝	竜崇正	盛克己	堀川義文	星野聡	藤原克己	高岡邦子	中嶋弘道	鳥居敏明	土田弘基	玉井輝章	滝川弘志	諏訪敏一	鈴木昭一	佐野元昭	佐藤英樹	神津玲子	久野宗寛	北原宏	加藤之康	鹿島孝	太田東吾	岩間汪美	一瀬正治	石井豊信	赤尾建夫	須藤壮一郎	篠原義賢	神津照雄	窪田勝也	高橋容子	奥村恒雄	遠藤晴久	日笠山一郎	林龍哉	忍頂寺紀彰	中村謙介	宮坂齐														
千見寺勝	高橋長裕	住吉徹是	杉山吉克	腰塚格	木村邦夫	榎本正満	細山公子	一戸彰	小俣政男	アントニージュセフナボレオン	相田尚文	昭45	和田力	渡辺孝太郎	吉田行夫	吉井與志彦	高橋秀禎	間山素行	細井湧一	萩巢敏子	林恒男	西村則之	東山義龍	高良宏明	須藤壮一郎	篠原義賢	神津照雄	窪田勝也	高橋容子	奥村恒雄	遠藤晴久	日笠山一郎	飯塚登	浅野武秀	昭44	和田源司															
寺澤捷年	滝沢淳	高橋正年	菅ヶ谷純弘	堺常雄	黒田重史	北島忠昭	梅津亮二	伊藤文二	家里憲二	新井裕二	昭45	渡辺義郎	吉田操	吉田明弘	山岸厚子	矢田洋三	堀江圭	星山圭	林雅意	加来俊貞	大森耕一郎	内田朝彦	今田屋章	千葉幸恵	高瀬直子	牛嶋綱二郎	大友一夫	萩原奉祐	門井隆司	金田庸一	木澤功	北野邦孝	結東温	小林弘忠	杉本和夫	河村和子	高橋誠	谷口環子	中村欽哉	浜崎智仁	久田俊和	川村ひろみ	文隆雄	阪善昭	三浦利重	山室美砂子	与那嶺和子	若林孝宣	昭47	石川詔雄	伊藤文憲
灘岡壽英	中村剛史	徳久賢一	高安洋文	鈴木洋文	須崎展將	佐藤展將	後藤澄雄	小林健一	高圓博文	木村秀樹	木内信二	兼坂俊章	小川清	大場敏明	梅田透	上野正純	猪股弘明	岩田泰子	浅野誠	昭48	脇坂正美	力武知之	山森秀夫	西川哲男	中村和郎	唐司則之	田井東風	鈴木信夫	勝呂徹	眞山和徳	北沢栄次	加藤誠	尾形実	大野一英	榎本貴夫	稲葉憲之															
内田宏子	永山洋子	内藤次郎	千葉常夫	高島晴彦	鈴木厚治	坂口明	小林道生	河野陽一	片桐博子	君塚五郎	金塚順二	笠貫富雄	小川富雄	大内美南	上村重明	岩本逸夫	上村加代子	一木昇	渡辺滋	若山芳彦	吉田象二	松川正明	西野卓	長尾啓一	中嶋征男	若山曜子	相馬光弘	鈴木光二	菅野勇	栗原正	菊池友允	河西十九三	岡信男	大岩孝司	宇津見和郎																
勝呂慶子	篠遠彰	佐伯直勝	後藤信昭	木村道雄	川口英昭	鴨下博	沖本光典	大塚裕	入江氏康	秋谷徹	昭50	渡辺順子	森川眞一	長谷川純	西山眞理子	中村文子	田町誓一	田中眞	武井亮二	鈴木亮二	五月女直樹	菊地紀夫	金子作蔵	入江澄子	岩津都希雄	有田正明	青柳光生	昭49	山本義一	安野憲一	守田政彦	保高由美子	前川岩夫	千見寺徹	羽鳥文磨	野口哲夫															
隆元英	篠宮正樹	佐々木健	斉藤万比古	小出義雄	北川道隆	河内文雄	上村公平	大森景文	上田志朗	麻生誠二郎	昭50	弓削恵只	三上文彦	鳩貝文彦	野村恭子	西山裕孝	土佐純一	田邊政裕	田中正	高原善治	佐藤武幸	木村純	田辺恵美子	片桐誠	江原正明	石神博昭	浅井隆善	昭49	山本博憲	村野俊一	松谷和徳	増田政久	野積邦義	登坂薫	小林けい子	中尾照逸	戸塚清一	高林克己													
小林純	久保田浩一	北澄忠雄	香村衡一	尾崎正彦	稲田晴生	五十嵐辰男	昭52	由佐俊和	松村順子	蒔田順子	紅谷明	姫野雄司	南波美伸	寺野隆	高橋和久	佐藤兼重	坂本孝行	児島知	黒崎周文	小野和則	小野純一	岩崎秀昭	森本典子	赤嶺正裕	昭51	山本博憲	山岸文雄	村野俊一	松谷和徳	増田政久	野積邦義	登坂薫	小林けい子	中尾照逸	戸塚清一	高林克己															
鈴木孝雄	小林彰	木村正幸	香村玲子	海宝雄一	大迫政智	奥野妙子	昭52	山本和夫	松谷正一	蒔田国伸	布施秀樹	林春幸	中山朝行	寺崎太郎	篠塚正彦	斎藤典男	小松健祐	伊古田裕子	川村健二	鏡味勝	小野元子	大塚芳克	井坂茂夫	秋田徹	昭51	横須賀收	山本日出樹	森野正明	宮崎道雄	増村道雄	野村文夫	西山徹	高橋道子	永瀬讓史	富谷久雄	土佐寛順															
杉浦信之	下条直樹	近藤福雄	小林繁樹	大内純太郎	石毛俊行	五十嵐忠彦	昭54	渡邊浄	若林俊雄	吉原卓	吉澤岩男	山上純子	塚田明宏	中村幸夫	得丸幸夫	寺井勝	武永博	鈴木文晴	小川敏生	石川てる代	荻野幸伸	宇田川晃一	上田源次郎	石川洋	昭53	山田善重	湊明	堀部和夫	福田薫	檜前薫	中山大典	中沢肇	高橋敏信	須田啓一																	
杉田克生	白土英明	篠遠仁	小林繁樹	萬仲子	今関文夫	伊澤英次	昭54	和田二	李元浩	吉田英生	山口哲生	森照男	三瀧忠道	野々村裕子	仲田勲生	徳重克彦	塚本哲也	高良健司	菅沢寛健	川俣泰男	織田成人	遠藤和男	上野泉	伊藤公道	昭53	山口孝幸	松前吉雄	升田吉雄	古川明夫	兵頭明夫	林田和也	中村勉	塚田和美	高田俊一																	

馬場章	永島一彰	中島明弘	土屋麻里	道永博之	高田俊行	清水秀一	座間在完	高克彦	亀井紀雄	笠松陽一	岡隆	伊藤隆	足立武則	昭56	羅智靖	宮崎三忠	藤田明	水見寿治	蓮沼桂司	野田和男	永井將道	十川康弘	田中篤	須藤義夫	柴橋博之	斎藤康文	久木親重	長雄一	植松武史	有我隆光	昭55	吉田弘道	福田幾夫	中村真人	鶴田好孝	田川雅敏	鈴木良一	
松本俊一	長谷川潔	中村広志	友利秀憲	武内重康	瀧口正樹	鈴木裕子	繁田美香	五島茂之	川副泰成	加藤邦彦	小川利隆	伊藤博	伊丹純			湯口恭利	前田勝久	深澤一雄	氷見京子	橋本尚武	長島通	鳥居俊男	亀井太美子	砂田莊一	杉原茂孝	潮平芳樹	栗原和男	神崎哲人	雄賀多聡	石橋巖		渡辺恒家	宮本北見	林北見	宮崎泉	巽浩一郎	高野正一	
桑原聡	奥脇治郎	岸雅子	市川智彦	赤倉功一郎	昭59	山本修一	森田昌男	丸山浩	武城英明	日野剛	長門義宣	田中泰弘	滝口裕一	鈴木俊英	平井真紀子	今田進	加藤雄一	池田政文	昭58	和久真一	山口卓秀	古川敬芳	中村清吾	酒井直美	角谷明子	島田薫	下山真彦	小森功夫	川島真	ピアス洋子	天野穂高	昭57	湯山琢夫	森石丈二	三浦正義	松村竜太郎	堀内千恵子	福武敏夫
幸田圭史	小野崎郁史	岡本雅臣	伊豫史朗	磯野史朗		山崎正志	宮副一郎	星岡明	深沢毅	西村元伸	豊崎哲也	田島和幸	高木一也	品田良之	近藤克則	亀山伸吉	石川信泰			山西友典	守月理	幡野雅彦	丹沢秀樹	龍野一郎	白澤浩	下山直人	篠崎克己	川島利彦	大嶺直路	岩井直路	吉川正治	森永哲文	道永幸治	松村千恵子	堀内啓			
長門文子	寺内隆司	園田昌毅	須藤知子	沢田貴志	櫻本薫	菊地浩之	加藤直也	香川晃太郎	今牧瑞浦	石田厚	石井智江	安達智江	昭61	保元明彦	森嶋友一	林秀樹	鍋谷圭宏	堂垂伸治	豊沢忠	鈴木昌彦	古口徳雄	窪田徳幸	北崎等	菊野朝志	岡田朝志	石島秀紀	有田洋右	阿部恭久	昭60	吉田正美	村井尚之	松原久裕	藤本肇	中川安治	田中尚武	高梨一紀	下山恵美	
西村美樹	中澤美成	高谷美成	芹澤徹	新藤寛	佐藤晴彦	木村直弘	金田庸一	片橋立秋	小田健司	伊藤宏文	石井光子	有田誠司		吉野薫	師尾郁	宮澤幸正	並木隆雄	中信一	豊根知明	田邊信宏	坂井誠一	興村義孝	木元正史	北川憲一	佐藤典子	井上雅子	五十嵐裕章	安蒜聡	渡邊和義	持田晃	光永伸一郎	星野育男	西島由美	露口利夫	高橋弦	高石聡		
茂木健司	三木隆司	松下一之	中村伸一郎	中世古知昭	白井よんえ	佐藤正俊	小林欣夫	蟹澤泉	金井文彦	柿沼由彦	内田佳孝	石井秀始	青木俊郎	昭63	遊座潤	安原晃一	松江弘之	佐藤さゆり	二宮栄一郎	田島康夫	関川敏彦	菅谷啓之	志賀英敏	佐々木一	三枝敬史	呉青洋	熊谷匡也	朝比奈真由美	江畑龍樹	秋元英里	青江知彦	昭62	結城崇夫	村上康二	松永保	林偉明	西脇哲二	
横手幸太郎	村岡秀樹	丸井泰司	松井芳文	徳山竜彦	杉浦敏之	獅子原正樹	小松尚也	黒須克志	金山竜沢	笠原靖紀	宇野輝彦	石川佳宏	安達佳宏		山口浩史	松永正訓	福田浩之	野首光弘	中馬敦	武田恒弘	鈴木正人	新見将泰	佐藤直秀	坂本直哉	今野慎	小山秀彦	加藤大介	大曾根義輝	坂本明美	青柳正彦	渡辺啓治	村松俊範	三浦信之	古谷雄三	萩原雅司			
諏訪部信一	清水公一	斎藤雅彦	小島博之	倉持宏明	石塚伸子	市川千秋	早川睦	平3	吉村光太郎	丸山紀史	中川晃一	高柳建志	鈴木淳也	佐藤宏	五月女隆	川名秀忠	岡田吉弘	大淵和弘	老沼和弘	石川文彦	安西尚彦	平2	宮内真規	皆川真樹	平栗雅樹	濱野ナ子	中島文毅	知久毅	高瀬真児	須藤真実	鈴木昌彦	真田昌彦	金民世	菊池周一	植田健	平元絵里		
福山郁修	白鳥享	鹿間弘一	小林広成	草塩公彦	今井直樹	天野晋			湯浅譲治	藤井克則	田中保彦	鈴木洋人	清水栄司	佐藤悟郎	木下知明	勝見明	小風暁	太田真	石和田稔彦	安藤策郎		八木毅典	南野徹	船橋伸禎	原木真名	花澤豊行	手塚健太郎	田垣内祐吾	関根郁夫	須関馨	杉戸一寿	佐粧孝久	北村伸哉	大森繁成	渡部良夫			
吉田元	丸田哲郎	大門雅夫	宗永元	齋藤武	香西由美子	門野源一郎	小高謙一	大鳥精司	鶴飼伸一	平6	増田真一	藤本善英	深町唯博	花岡英紀	徳永進	関谷武司	鈴木陽一	岸宏久	天野景治	平5	山本正二	谷嶋隆之	三橋修	獅子原薫子	高瀬一嘉	櫻井健一	小宮顕	川平洋	奥山恭子	梅澤正美	磯部公一	阿部雄造	平4	三池聡	松本伸行	島山健次	中島光一	
	水鳥川俊夫	松尾幸治	高森尉之	諏訪園靖	河野世章	黄舜範	笠川隆玄	唐木千穂	碓井宏和			本橋新一郎	福田和司	原佳奈子	中村佳代	奥佳代	杉本克己	坂尾誠一郎	太田詔		吉田克彦	矢花孝文	三橋繁	町田南海男	樋口佳則	真広智仁	阪井守	小泉健一	加藤里絵	遠藤恒宏	井上淳	石井徹		三浦文彦	宍倉めぐみ	二村静子		
平11	伊藤彰一	三浦陽子	照井慶太	大森佳子	窪田伸矢	平10	吉田一也	日暮真由美	外岡亨	多田素久	鈴木修一	河野千代子	沼田美佳	富田美佳	伊豫田稔	平9	和田曉彦	平野剛	豊田智彦	千葉哲博	三階貴史	小倉孝一	岡田尚子	天野佳子	浅井利大	平8	横張賢司	宮内秀行	松本桂子	細井郁芳	橋本光宏	服部功太郎	武田真一	陣内彦良	神作憲司	伊藤彰		
	溝口雅子	藤井朋子	窪田真理子	愛波淳子			田中政道	日暮浩実	田宮重堂	多田弘子	照井エレナ	星山治清	河村治清	志田崇			平野好絵	豊田玲子	玉井恒憲	川名有紀子	岡本英輝	井上博	阿部敦				村田勝宏	溝淵輝明	東守洋	松井由紀子	野村知弘	竹内真紀	木原真紀	金子透子				

高市 麻貴	金井 慎一	平 18 渡辺 美佳	仙波 宏章	平 17 山本 憲子	杉山 雅彦	岡山 大輔	有川 俊輔	平 16 宮城 正行	野口 佐綾香	土居 厚夫	高橋 宏	上原 孝紀	平 15 吉井 淳	清水 怜	上野 高尚	平 14 中村 順一	門平 忠之	岩澤 真理	平 13 森谷 純治	Visser 藤尾純子	栃木 直文	椎名 明大	長谷川 宏美	平 12 森 有紀	三澤 園子	所知 加子	新保 正貴	木下 香	上原 七生	岩田 剛和								
高本真巳子	齊藤 景子		高瀬 正幸		松木 悟志	片桐 明	内野 康志	山地 沙知	花岡 大資	新津 富史	高柳 俊作	鈴木英一郎		半田 聡	嶋 謙一郎	李 泓	櫻井 隆之	太和田 彩子		野口 美香	立石 順久	幸部 吉郎	吉住 博明	宮本 牧	西村 基	松浦 玄	清水 秀文	岡本 明子	上原 淳太郎									
桑木 共之	代謝生理学	神経生物学	田那村 宏	診断病理学	橋爪 一光	清水 栄	呼吸器内科学	河野 治	伊賀恵美子	麻酔学	佐藤 彌生	法医学	水野 武昭	竹腰 昌明	荻野 彰	公衆衛生学	森 千里	熱海佐保子	環境生命医学	北原 漠	井上 雄元	環境労働衛生学	橘 正道	喜多 和子	環 影響生物学	吉原晋太郎	平 21 武内 祥子	有川 理紗	山川 貴菜	佐藤 明男	平 19 渡邊 大智	野村 亮太	田所 重紀					
形態形成学	米満 博	分子病態解析学	佐藤 千鶴	皮膚科学	小林 賢二	臓器制御外科学	小池 淳二	小池 智康	池上 智康	細胞治療内科学	木村 定雄	分子生体制御学	守 正英	野呂瀬一美	感染生体防御学	中谷 晴昭	井上 優	薬理学	野田 公俊	病原分子制御学	真鍋 溥	富岡 進	石引 雄二	泌尿器科学	古木 新	北川 元生	腫瘍病理学	芦野 洋美	遺伝子生化学	石川 徹	山中三平	柿栖 米次	石渡 東海					
久原 厚生	越後貫道子	宇野沢隆夫	足立 公代	腫瘍内科学	山越 隆行	橘 昌孝	亀谷 秀夫	岡本 美孝	耳鼻咽喉科学	渡邊英一郎	田波 秀文	鈴木 弘祐	小野崎 晃	整形外科学	多田 裕司	川上 武子	太田 節雄	阿部 博紀	小児病態学	中山 俊憲	免疫発生学	内田 昭夫	分化制御学	宮武昌一郎	齊藤 隆	遺伝子制御学	芳野 春生	小林 章弘	小野寺 勉	小野 寺 勉	生殖機能病態学	伊勢川直久	動物病態学	齋藤哲一郎	齋藤 美博	外山 芳郎	外山 芳郎	年森 清隆
小林千鶴子	川島柳太郎	奥田 桂子	内山 幸信	三橋 麗子	寺田 修久	小関 洋男	鎌田慶市郎	久保田 亨	伊賀 浩	先端応用外科学	盛永 智子	嶋田 健	佐藤 匡司	大川 和子	木村 孝雪	小河原克訓	内山 清春	石山 信之	臨床分子生物学	宮内 郁枝	杉林 昭男	江原 和枝	循環病態医科学	岩間 厚志	細胞分子医学	恒元 博	呼吸器病態外科学	遠山 富也	荒居 龍雄	放射線医学	日下 忠文	精神医学	米満 裕	日暮 協	寺田 洋臣	須田 恵	佐久間 淳	
松宮 護郎	心臓血管外科学	田村 裕	生命情報科学	元山 逸功	原田 靖志	篠原 靖志	久保田 亨	伊賀 浩	海宝 雄人	佐久間洋一	横江 秀隆	椎葉 正史	坂本 洋右	工藤 逸郎	小野 可苗	大木 保秀	鶴澤 一弘	諸岡 信裕	信裕	元山 妙子	小室 一成	伊東 久夫	中村 修	伊東 久夫	吉野 一郎	要生	田 要生	中村 修	伊東 久夫	伊東 久夫	伊藤 俊夫	矢沢 孝文	馬場 勇次	多田 武江	及川 貞			

新るの は な 同 窓 会 館 設 立 事 業 会 募 金 状 況 報 告 書

平成24年10月31日現在

寄付者	千葉大学基金		るの は な 同 窓 会 寄 付 金		合 計	
	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
企業等	133	47,899,000	14	2,890,000	147	50,789,000
教職員 (元職員も含む)	187	22,774,000	121	4,190,861	308	26,964,861
同窓会会員	1,472	113,410,000	931	39,471,217	2,403	152,881,217
後援会会員	66	4,838,000	49	2,730,000	115	7,568,000
合 計	1,858	188,921,000	1,115	49,282,078	2,973	238,203,078

飯寄 奈保
総合診療部
生坂 政臣
薬剤部
大森 栄
先端和漢
笠原 裕司
43クラス会
2028るの は な 同 窓 会
七葉会(専25)
五窓会(専23)

八千会代表大沢弘和(専26)
葉々会
昭和61年卒同窓会
矢作会代表永野俊雄(昭30)
西千葉医師の会
北田光一教授退官記念事業会
千葉大学医学部脳神経外科学教室
もぐら会
るの は な 37会
千葉大学医学部平成4年の会

おくやみ

大木 良作(専18)
 佐野 隆(専20)
 中澤幹太郎(専20)
 川並 節夫(昭24)
 植草 富二郎(専24)
 鈴木 一郎(専24)
 仲原 寛(昭25)
 跡部 勝朗(専25)
 今井 昭正(専25)
 野口 吾郎(専25)
 中沢 芳蔵(前橋医専・昭25)
 西宮 脩(昭26)
 霞 岩夫(順天大・昭26)

福原寿万子(東京女医専・昭26)
 町澤清太郎(昭27)
 町井 彰(昭30)
 齋藤 實(昭31)
 神田 尚忠(昭32)
 阪 信(昭35)
 箕山 富夫(昭36)
 木村 毅(弘前大・昭37)
 三好 武美(昭38)
 榑木亮太郎(昭40)
 天野 勝弘(昭41)
 池 襄一(神奈川大・昭49)
 宮本 和寿(滋賀医大・昭56)

明けましておめでとうございませう。この同窓会員の皆様におかれましては、気持ちも新たに新年をお迎えのことと思ひます。私は2002年に編集委員を任命され、10年が経過しました。2010年からは東京女子医科大学八千代医療センター病理診断科に勤務をしておりますが、引き続き編集委員の一員に加えていただき、ありがとうございます。東京女子医科大学には総合研究所という共同利用施設があり、2012年には八千代医療センターにも共同利用施設が開設されました。私はその施設長を拝命し、当センターの医師が診療をしながら研究を継続できるよう支援をしています。この同窓会報は、かつてはB5版でしたが、1995年に発行された第109号からA4版になりました。第109号は6頁でしたが、現在は30〜40頁になっています。2012年に発行された第161号からはカラー印刷となり、各地のこのな会だより、クラス会での集合写真も同窓生の表情が鮮明に印刷されています。集合写真にはできる限りお名前をフルネームで記載するようにしていますので、参加されなかつ

た方や他の学年の方も、お名前から長らく会っていない同窓生のことを懐かしく思い出されていることと思ひます。このな同窓会報には、医学生が千葉大学医学部の同窓としての自覚と誇りをもつよう、東医体の結果、亥鼻祭の報告、医学留学「MEDプログラム」体験記、課外活動団体だよりなど、医学生が書いた記事を掲載しています。また、新医師臨床研修制度で各地の病院で研修をしている若い卒業生との絆を強固にするよう、シニアレジデントの紹介、研修プログラムの紹介などの記事を掲載しています。会員の皆様からも、新たな記事、企画などについての要望があります。今回の編集委員会では、編集委員長が清水栄司先生から三木隆司先生に交代することが決定しました。清水先生には6年間にわたり、このな同窓会報をまとめていただき、ありがとうございます。三木先生には、同窓会報がますます充実したものになるよう、今後ともご尽力をよろしくお願ひいたします。

廣島健三(昭54)

千葉医学雑誌88巻5号 2012年10月

症 例
 粘膜下腫瘍様の発育形式を呈した胃癌の1例
 高橋雅史 二村好憲 当間智子 佐久間洋一 高石 聡 小松悌介 山本義一
 急速な経過を辿ったPure Erythroid Leukemia 石塚保弘 小澤真一 澤澤元晴

話 題
 医学用語語源対話 杉田克生 池田黎太郎

千葉医学会奨励賞
 免疫系におけるエピジェネティック機構の解明と応用 小野寺 淳
 進行肝細胞癌における全身化学療法の研究
 -臨床試験の導入および幹細胞をターゲットとする治療法の開発- 鈴木英一郎
 ラット坐骨神経圧挫モデルの疼痛行動と脊髄グリア活性に対する抗p75受容体
 (神経栄養因子受容体) 抗体投与の効果 和泉允基

学 会
 第1240回千葉医学会例会・平成23年度細胞治療内科学例会
 第1241回千葉医学会例会・第26回千葉泌尿器科同門会学術集会
 第1245回千葉医学会例会・第29回千葉精神科集談会

研究報告書
 平成23年度猪之鼻奨学会研究補助金による研究報告書

OAP要旨
 外傷を契機に発見された硬膜内髄外腫瘍の1例
 古矢文雄 常泉吉一 池田 修 大河昭彦 国司俊一
 葛城 穰 大田光俊 高橋和久 山崎正志 大井利夫
 年森清隆

CHIBA MEDICAL JOURNAL Open Access Paper
 Case Report
 Incidental discovery of an intradural extramedullary tumor during imaging studies of a traumatic injury at the same spinal level : a case report
 Takeo Furuya, Yoshikazu Tsuneizumi, Osamu Ikeda, Akihiko Okawa
 Shunichi Kunishi, Jo Katsuragi, Mitsutoshi Ohta, Kazuhisa Takahashi
 Masashi Yamazaki and Toshio Ohi

千葉医学雑誌88巻6号 2012年12月

症 例
 大腸憩室が後腹膜腔に穿孔し広背筋膿瘍を形成した1例
 高橋幸治 青柳智義 当間智子 二村好憲
 佐久間洋一 高石 聡 増田 渉 山本義一
 頭蓋内出血を併発した胆道閉鎖症4例の臨床的検討
 松浦 玄 東本恭幸 岩井 潤

話 題
 第40回日本免疫学会学術集会を振り返って 徳久剛史

千葉医学会賞
 T細胞の抗原認識と免疫応答を司る活性化シグナルユニットの研究
 -免疫シナプスからマイクロクラスターへ- 横須賀 忠
 食道癌における重粒子線の臨床応用
 -さらなる集学的治療の飛躍を目指して- 阿久津泰典

海外だより
 Yale 大学留学記 安部 玲
 モントリオール留学記 宮城正行

学 会
 第1229回千葉医学会例会・整形外科例会
 第1243回千葉医学会例会・平成23年度第11回千葉大学大学院医学研究院
 呼吸器病態外科学教室例会

OAP要旨
 ICU入室患者における足浴が睡眠に及ぼす影響
 難波志穂子 下山一郎 木口 隆 氏家良人
 生水真紀夫

CHIBA MEDICAL JOURNAL Open Access Paper
 Original Paper
 Effects of foot baths on sleep in ICU patients
 Shihoko Namba, Ichiro Shimoyama, Takashi Kiguchi and Yoshihito Ujike

第五回(2013年度)千葉医学会賞および奨励賞候補者の公募について
 第6回ちばBasic & Clinical Research Conference開催のお知らせ
 88巻総目次・索引

編集後記